法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-29

和仏法律学校講義録

松本，烝治 / 田中，遜 / 鶴見，守義 / 岡田，朝太郎 / 板倉，松太郎 / 田代，律雄 / 梅，謙次郎

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
9
(号 / Number)
高等科
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
59
(発行年 / Year)
1903-05-17

（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可　毎月廿一回一日三日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十八日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年五月十七日發行

三十六年度　高等科ノ九

和佛法律學校講義錄

第百拾貳號

和佛法律學校

高等科第九號目次

民法

○留置權ニ付テノ推問……法學士 板倉松太郎
○賣買其他ノ契約ニ關スル推問……法學士 田代律雄
○賣權ニ付テノ講演……法學博士 梅謙次郎

商法

○賣買ニ關スル推問……法學士 松本烝治
○交互計算、匿名組合ニ付テノ推問……法學士 松本烝治

刑法

○一罪ト數罪トノ區別ニ關スル推問並ニ講演……法學博士 岡田朝太郎

刑事訴訟法

○刑事訴訟法第九十條ニ就テノ講演……法律學士 鶴見守義
○鑑馬法（自一二五頁至一四八頁）……アドヴォカート 田中運

雜報 ○最近判例要旨彙纂

（正誤 民法一六二頁八行「一般」ハ「一般ノ」）

090
1903
4-9

留置權ニ付テノ推問

本校ノ囑託ニ依リ本日ヨリ諸君ト共ニ民法中物上擔保ニ關スル規定ヲ研究スルコトト爲レリ本日ハ先ヅ留置權ニ付キ推問ヲ試ムベシ如來

講師　民法第二百九十五條ニ所謂「其物ニ關シテ生シタル債權」トハ如何ナル意ヲ

生徒　「其物」トハ債權者カ占有スル物ヲ謂フ而シテ所謂「其物ニ關シテ生シタル債權」トハ如何ナル意ヲ

講師　「關シテ生シタル」トハ如何ナル意味ナルカ

生徒　「關シテ」トハ最モ廣キ意義ニシテ訓ヘハ修辭學ノ如シ

講師　包括的ニ言フトキハ如何

生徒　文面通リヨリ外ニ言フコトヲ得ス

講師　最モ包括的ニ說明スルハ困難ナレトモ舊民法ニ於テハ債權擔保編第九十

第二條ニ於テ定メタル債權ヲ除キタルト雖モ不十分ナリト雖モ其ノ所有權ニ依リ其物ニ關シテ生ジタル債權ニシテ其物ノ保存改良ノ爲メニ付キ金錢又ハ勞力ヲ費シタルカ或ハ其物ヨリ損害ヲ受ケタルニ因リ生ジタル債權ナリトモ謂スヘカラス

右ノ定義ヲ說明スレハ第一ニハ其物ヲ讓渡ニ因リ生シタル債權トハ或物ヲ賣渡シタルニ未タ其代金ハ支拂ヲ得サルカ如キヲ謂ヒ第二ニ其物ノ取得ニ因リトハ例ヘハ甲カ乙ヲ委任ニ因テ或物件ヲ買取リ來ル際ニ付キ立替金ヲ爲シタルカ如キヲ謂ヒ第三ニ其物ノ保存改良ノ爲メニハ例ヘハ人ノ爲メニ或乘馬ヲ預ル者カ其飼料ヲ支出スルカ又ハ十番名馬者ヲ以テ人ノ爲メ番線ヲ爲スニ付キ要シタル費用ノ如キヲ謂ヒ第四ニ其物ヨリ受ケタル損害トハ例ヘハ前例ニ於テ乘馬カ或病癖アルヲ依賴者ノ故意又ハ過失ニ因リ告ケナサシ爲メ預主ニ負傷セシメ之ニ因リテ損害ヲ加ヘタルカ如キヲ謂フ

生徒　物ノ讓渡ニ因リ生シタル債權例ヘハ賣買代金ニ付キ留置權アリトセハ民法第五百三十三條ノ所謂雙務契約同時履行ノ原則ニ矛盾スル所アルカ如

シ何トナレハ賣主ハ代金ノ支拂ナキヲ以テ留置權ヲ有スル買主ハ物件ノ引渡ナキヲ以テ代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ヘシ然ラハ此關係ハ如何ニ調和スヘキモノナリヤ

講師　民法第五百三十三條ハ債權關係ニ關スル規定ナリ然ルニ留置權ニ關スル規定ハ物權關係ニ關シ賣主ヲシテ其賣却セタル物ヲ代金ノ支拂アルマテ留置セシムト云フニ在リテ此二種ノ規定ハ毫モ矛盾スル所ナシ民法第五百三十三條ハ買主ヲシテ物ノ引渡アルマテ代金支拂ヲ拒ムコトヲ得セシムルノ規定ナリ民法第二百九十五條ハ賣主ヲシテ特定物ノ所有權ヲ買主ニ移轉シタルニ拘ハラス代金ノ支拂アルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得セシメ買主ヲシテ所有權ヲ原因トシテ代金ヲ提供セスシテ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得サラシムルノ規定ナレハ彼此毫モ矛盾スル所ナキ事ニ非スヤ調和ハ不出セリ

講師　遺失物匿置罪ヲ犯シタル者カ其物ニ關シテ必要費ヲ支出シタルトキハ其物ハ留置權ヲ有スルヤ

生徒　有セス何トナレハ其占有ハ不法ニ因リテ始マリタルモノナレハナリ

講師　遺失物ノ隱匿ハ常ニ占有ハ不法行爲ニ始マルヤ

生徒　遺失物ヲ拾得スルハ不法ニ非スト雖モ隱匿ハ不法ナリ

講師　然ラハ隱匿スル意思ノ生セサル前ニ支出シタル費用ニ付テハ如何

生徒　其場合ハ留置權ヲ有ス

講師　然リ

生徒(他ノ)　第二百九十五條第二項ニ依レハ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ニノミ適用セラルルカ如シ果シテ然ラハ遺失物ノ拾得者カ拾得ノ當時ニ隱匿ノ意思ヲ有セサルモノナルトキハ縱令其後ニ於テ隱匿ノ意思ヲ生スト雖モ占有ハ不法行爲ニ始マリタルモノト謂フコトヲ得サルカ如シ

講師　否其場合ニ於テハ拾得者カ隱匿ノ意思ヲ生シタルトキニ善意ノ占有カ惡意ノ占有ニ變シタルモノナレハ隱匿ノ時ヨリ第二ノ惡意ノ占有始マリタルモノナリ

生徒　一物ニ付テ物ノ所持ハ間斷ナシト雖モ此ノ如ク意思ノ善惡ニ依リテ占有ハ其性質ヲ變スルトセハ常ニ新ナル占有アルモノナリヤ

講師　然リ

生徒　然ラハ初メ竊盜ニ因リ占有シタル物ヲ爾後善意ノ占有ニ變スルトキハ如何

講師　惡意ノ占有カ善意ニ更ルコトナシ故ニ此ノ如キ場合ナシト謂ハサル

（カラス）

講師　留置物ノ所有者ニ對スル債權者カ强制執行トシテ留置物ヲ差押フルコトヲ得ルヤ

生徒　此場合ニ於テハ權利ノ衝突ヲ生スルモノニシテ其物ニ付テ二ノ異ナリタル權利アルモノト爲ル故ニ此場合ニ於テハ留置權ノ效力債權ニ比シ强力ナルヲ以テ畢竟差押ヲ爲スコトヲ得スト信ス

講師　舊民法債權擔保編第九十五條ニ依レハ留置權ハ他ノ債權者ノ差押及ヒ賣却ノ妨ト爲ラスト規定セシカ新民法ハ此ノ如キハ明白ナル理論ニ屬シ別ニ規定ヲ要セストノ理由ヨリ之ヲ削除セリ此趣旨ヨリ觀ルトキハ留置物ヲ

差押フルモ留置權者ヲ害スルモノニ非スト謂ハサルカ如シ何トナレハ縱令差押ヲ爲スト雖モ留置權者ハ留置權ヲ失フモノニ非ス又若シ競賣ニ付セラルルト雖モ競落人ハ留置權者ニ辨償ヲ爲スニ非サレハ留置物ヲ引渡サシムルコトヲ得サルハ競賣法ノ定ムル所ナレハナリ然レトモ予ハ動產ナルト不動產ナルトニ依リ區別シテ論セサルヘカラスト信ス蓋シ不動產ナルトキハ强制執行法ニ依レハ留置權者ノ占有ノ儘差押ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ留置權者ヲ害スルコトナシト雖モ若シ有體動產ナルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ基キ適法ニ差押ヲ爲サントセハ留置權ヲ消滅セシメサルヘカラス何トナレハ同法第五百六十六條ニ依レハ「競達更其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス」モノトセリ故ニ現實ニ差押ヲ爲ストキハ爲メニ留置權者ノ占有ヲ失ヒ其結果留置權ヲ消滅セシメサルヘカラサルニ至ル要スルニ不動產ニ付テハ差押ヲ爲スコトヲ得ト雖モ動產ニ付テハ差押ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(民法第三〇二條參照)

講師　留置權ノ不可分トハ如何

生徒　物ノ各部ヲ以テ債權ノ全部ヲ擔保スル物ノ全部ヲ以テ債權ノ各部ヲ擔保スルトノ意ナリ

講師　其適用ハ如何

生徒　例ヘハ書籍十冊ノ上ニ留置權ヲ有スル者アルニ當リ其債權者カ債權ノ半額ノ辨濟ヲ受クルモ猶ホ全部即チ十冊ニ付テ留置權ヲ行ヒ得ルカ如シ

講師　留置權カ不可分ナル結果トシテ

第一　債權ハ分ツコトヲ得ヘキ場合ニ於テ其一部分ヲ拋棄スルモ留置權ハ其殘存スル部分ニ存スルモノトス

第二　債權者ハ其債權ノ一部辨濟ヲ受ケルモ自己ハ一部返還ノ義務ヲ有セス而シテ動產ノ場合ニ遺產相續ノ場合等ニ適用アリ即チ留置物ノ一部ヲ相續シタル者ト雖モ自己ノ負擔分ヲ辨濟シ留置物ノ一部ヲ引渡サシムルコトヲ得サルカ如シ

第三　共同債務者ノ一人カ自己ノ負擔分ヲ辨濟スルモ留置物ノ分割ヲ請求ス

ルコトヲ得ルモノ一人ハ自己ノ負擔ニ帰スベキ債務ヲ履行スルモ尚ホ留置物ノ全部ノ上ニ留置權ヲ行フ

四　留置物ハ天災等ニ因リテ一部滅失スルモ仍ホ全部ノ上ニ留置權ヲ行フコトヲ得ルヤ

講師　留置權者ハ留置物ノ代價ノ上ニ優先權ヲ有セサルヤ

生徒　留置權ハ物權ナルヲ以テ何人ニ對シテモ對抗スルコトヲ得ベク殆ト優先權ト同一ノ效力ヲ有スルヲ以テ法律ハ優先權ヲ與ヘス

講師　然ラハ競賣法第三條ニ留置權者ハ留置物ヲ競賣ニ付スルコトヲ得ル規定アリト雖モ其必要ナキカ如シ如何

生徒　然レトモ留置權者カ留置物ヲ所持スルトキハ却テ不利益ヲ蒙ル場合ナシトセス斯ル場合ニ於テハ総合他ノ一般債權者ニ配當ノ要求ヲ受クルモ尚ホ必要アルヘク殊ニ必スシモ配當要求アルヘキモノニ非サル場合アレハナリ

講師　然リ次ニ留置權ノ性質タル優先權トハ如何

生徒　留置物ヨリ生スル果實ヲ收得シ利息及ト債權ヲ辨濟ニ充ツルコトヲ得ルナリ

講師　然ラハ其果實ヲ費用例ヘハ債權額讓渡ノ訴訟費用ニ充ツルコトヲ得ルカ

生徒　第二百九十七條第二項ニ利息ニ關シテハ費用ニ及ハス故ニ正面ヨリ解スルトキハ果實ヲ以テ費用ニ充ツルコトヲ得サルカ如シ然レトモ民法ノ他ノ點ヨリ觀察シ且法理ヨリ論スルトキハ費用ハ利息ヨリ先ニ辨濟ヲ受クヘキ性質ノモノナルヲ以テ費用ニ付テモ優先シテ辨濟ニ充ツルコトヲ得ヘシト信ス

講師　成程民法第四百九十一條等ヨリ觀察スルトキハ勿論解釋上然ルカ如シ然レトモ優先權ナルモノハ法律ヲ明文ヲ以テ始メテ存ト雖モ若シ明文ヲ以テ否定セサルトキハ法理ヨリ論スレハ無效ニ帰スルヤ

講師　留置權者カ果實ヲ收取スルトキハ之ニ因テ生シタル損害ハ何人ニ帰スルモノナルヤ

生徒　留置權者ハ留置物ヲ保存スルハ善良ナル管理者ノ注意ヲ盡ス義務アリ

生　故ニ其適用ナシ若シ損害ノ賠償又ハ請求シ得ヘキ損害賠償ノ責任ニ非サルヘ
カラ[illegible]スヘキモノナルヘシ

講師　前講ノ解答ニ非ス舊民法ニ於テ明カニ其規定アリ然ルニ新民法ニ於テ削
除シタル理由ハ留置權ナルモノハ通例永續スヘキモノニ非スシテ法律モ亦
其永續セシメンコトヲ欲スル趣旨ニ出テタルニ非ス果實收取ノ義務ヲ留置權者
ニ強フルハ却テ留置權ノ性質ニ反スト謂ハサルヘカラス且又實際此ノ如キ義務ヲ強ユル必
要ナク又若シ之ヲ負ハシムルトキハ實際問題ノ解釋ニ當リテ種種ノ紛議ヲ
來スノ弊アルヲ以テ此義務ヲ負ハシメサルハ大ニ實際ニ適シタルモノト謂フヘシ
[illegible]

[illegible]果實ヲ以テ費用ニ充ツルコトヲ得セシメハ[illegible]

賣買其他ノ契約ニ關スル推問

生　[illegible]費用ニ及ハス故ニ正面ヨリ解
ルカ

講師　然ラハ其果實ヲ費用ニ充ツルハ[illegible]民法第二百九十七條[illegible]律ニ雄[illegible]得サ
ルナリ

講師　賣買契約ヲ爲ス際當リ代金ハ明日取引所ニ於ケル相場ニ依リ定ムト爲シ
タルトキハ賣買ハ成立スルヤ否ヤ

生徒　成立セス代金ハ賣買ノ要素ナルカ故ニ其代金カ確定セサルトキハ
即チ要素ニ欠缺アルモノナレハナリ[illegible]

講師　然レトモ未タ代金ノ額ハ定マラサルモ賣買ノ要素タル代金ハ存スルニ
非スヤ

甲生徒　此ノ如ク不確實ナル代金ハ代金ナキニ異ナラス[illegible]

乙生徒　不存ハ賣買ハ成立スルモ代金ノ確定ハ條件ニ繫レルモノナリト謂フヘク[illegible]

講師　相場會社ニ於テ明日ハ必ス確定スルモノナルヲ以テ之ヲ條件附ト看做ス
[illegible]得ルヤ其金額ノ確定セサル代金支拂ノ債務ハ已ニ發生シ[illegible]

乙生徒　然リ[illegible]期限附ナリ[illegible]代金支拂ノ債務ハ一旦發生シタルナリ

丙生徒　[illegible]賣買ハ非常ナル不確ノ有償契約ナリ[illegible]

講師　一然レトモ民法ハ賣買ノ章ニ於テ必スシモ額ノ確定スルコトヲ要スル規定ナ
キヲ以テ[illegible]故ニ單ニ代金ノ[illegible]額ハ相場會社カ不可抗力ニ因

生徒　賣買成立スト解スルヲ以テ正當ト思惟ス蓋シ相場會社カ不可抗力ニ因リ一定ノ相場ヲ見ルニ至ラサリシトキハ總テ代金確定スルニ至ラスシテ可ハルモノナルカ故ニ履行不能ニ因リ相手方ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ

講師　然ラハ本問ノ場合ニ於テ代金支拂ノ債務ハ一旦發生シタルヤ

生徒　然リ其金額定マラサルモ代金支拂ノ債務ハ已ニ發生セリ

講師　假ヘ債務發生シタリトスルモ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因ラスシテ履行不能ト爲リタルニ何故ニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルヤ凡ソ當事者ノ意思表示マラサルトキハ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ解除權ナキカ如シ如何

生徒　然レトモ履行ヲ爲サントスルモ能ハサルニ歸セサル外金ハ非スシテ

講師　本問ノ場合ハ賣買ノ完了セサルニ先テ其要素タル代金ヲ欠缺セルカ故ニ履行不能ト謂フコトヲ得スシテ契約不成立ノ場合ナリ之解消セサルヘカラス

生徒　賣買ハ成立スルヤ否ヤ

講師　代金ノ指定ヲ評價人ニ委ル定ムト云フ場合ニ於テハ賣買ハ成立スルヤ

生徒　條件附賣買ナリ何トナレハ代金ヲ定ムルコトカ第三者ノ自由意思ニ繫ラシメタレハナリ

講師　若シ買主カ故意ニ第三者ヲシテ代金ヲ指定セシメサルトキハ如何

生徒　所謂條件ノ成就ヲ故意ニ妨ケタルモノナレハ相手方ハ條件成就ト看做スコトヲ得ルカ故ニ賣買ハ單純賣買ト變スヘシ

講師　條件ト解スルハ非ナリ若シ其場合ニ賣買カ單純賣買ト變シタリト謂フヲ得ハ其代金ハ幾許ヲ請求スルコトヲ得ルヤ故ニ前問題ト同一ニ解スルヲ以テ正當ト信ス

講師　質權ヲ設定スル契約ノ性質如何

甲生徒　質權ノ豫約ナリ何トナレハ質權ヲ設定スルニ要スル契約ナレハナリ

乙生徒　予ハ質權ノ豫約ト謂フヘキモノニ非スト思惟ス何トナレハ質權設定ハ未來ニ屬スレハナリ故ニ一種ノ有價行爲タル無名契約成立シ當事者ニ對シ單純ナル債權關係ヲ發生セシムルノミ

講師　金ヲ貸借スル契約ヲ爲シタルトキハ如何

生徒　消費貸借ヲ成立セシムル債權關係存在スルノミニシテ消費貸借ノ豫約ニ非サルコト前問ト相同シ

講師　消費貸借ノ豫約民法第五八九條ハ何ソヤ賣買ノ豫約ト觀念ヲ異ニセサルヤ

生徒　中答フル者ナシ

講師　賣買ノ豫約ハ賣買契約ヲ爲サントスル一種ノ契約ニシテ性質上賣買ノ申込若クハ承諾ニ非サルヘシ然ルニ我立法者ハ實際ノ便宜ニ鑑ミ賣買ノ豫約ニ申込ト同一ノ效力ヲ付シタリ此觀念ヲ直チニ消費貸借ノ豫約ニ移シ所謂豫約ハ申込ナリト推測シタルニ非サルカ

第三答ノ謂ハル理由ハ如何ト問フ

賃權ニ付テノ講演　其二

法學博士　梅謙次郎

今日ハ賃權ノ效力ノ御話ヲ致シマス前編ニハ賃權ノ一般ニ就テ述ヘタ通リ賃權ノ效力ハ要スルニ賃權ガ物權デアルト云フト及ビ擔保權デアルト云フコトヲ合キタ言ヘバ一ツハ物上擔保ニスルト云フコトカラ其效力ノ大體ヲ定マルト思ヒマス賃權ハ他ノ物上擔保ト同ジク三ツノ效力ヲ生ズル第一ニハ追及權第二ニハ優先權第三ニハ不可分權ト云フ三ツノ效力ヲ生ズル先ヅ第一追及權ノ御話ヲ致シマスト云フモノハ賃權ハ物權デアルガ故ニ賃權ノ目的物ガ何人ニ權利ノ目的ト爲スヤ或ハ何人ニ權利ノ目的ト爲スヤトモ其レニ拘ハラズ何人ノ所有ニ及ブ即チ何人ニ對シテモ之ヲ主張スル効力ガ出來ル之ガ此場ニ於テ他ノ物權ト異ル所ト云フ

ナイ、例ヘバ質權設定ヲ受ケタ物ヲ質權設定者ニ引渡シ、即チ所有權ヲ移轉シタト云フ如キモ質權ニ爲メニ少シモ害セラルルコトハナイ、新シキ所有者ニ對シテ對抗シ得所有者ニ對スルガコトク質權ヲ主張シ質權ヲ行使スルコトガ出來ル況ヤ他ノ權利ヲシテ無條件物權デアラウトモ質物ガ他ノ權利ノ目的ト爲ツタト云フトモ少シモ質權ニ害セラルルコトハナイ、是ガ所謂追及權デアル、之ニ付テハ多少反對說ガアル、不動產ニ付テハ疑ハナイケレドモ動產ニ付テハ追及權ガナイト云フコトヲ言フ者ガアル、其理由ハ動產ハ占有ヲ失ヘバ直チニ質權ヲ失フノデアル、又他人ガ此上ニ權利ヲ取得スル爲メニハ引渡ガ必要デアル、即チ一方ニ於テハ質權者ノ方デ占有ヲ失ヘバ質權ガ消滅スル、他ノ一方ニ於テ權利ヲ取得シタル者ガ占有ヲ得ナケレバ其權利自體ヲバ何人ニモ對抗スルコトガ出來ズ、當事者ヲ除ク外ハ……即チ質權者ニ對シテモ其權利自體ヲ主張スルコトガ出來ナイ、故ニ第三者ノ權利ガアル、第三者ノ權利ガ法律上認メラレナケレバナラヌト云フ時ニハ、即チ質權ハ消滅シタ時デアル、ソウスルト追及權ト云フモノハナイ、質權ノ存シテ居ル間ハ第三者ノ權利取得ト云フコトガナイカラ之ニ對シテ其權利ヲ主張スル必要ガナイ、質權ヲ失ヘバ追及權ハカリデハナイ、總テノ質權ノ效力ガ消滅スルカラ此場合ニ於テモ質權ノ追及權ト云フ問題ハ起ラヌト云フ說デアル、成程多クノ場合ニ於テハ反對論者ノ言フ如キ實際上ノ結果ニ爲ルノデアル、併ナガラ其レハ必然ノ結果デハナイ、先ヅ第一ニ質權者ガ占有ヲ奪ハレタル場合ニ於テハ尙ホ一年間ハ占有回收ノ訴ニ依ツテ占有ヲ回復スルコトガ出來ル、此場合ニハ質權ヲ失ハナイ、故ニ其質權者ガ占有ヲ奪ハレタ後例ヘバ惡意ニテ—惡意ト云フコトハ別段人ヲ害スルト云フ意思デナクシテ單ニ質物デアルト云フコトヲ知ツテ居ルノデモ構ハズ、質物デアルト云フコトヲ知ラナガラ其レヲ質ツタ者ガアル、隨テ其レヲ受取ツタ即チ引渡ヲ受ケタ、此場合ニ於テ若シ質權ニ追及權ナシト云フナラバモウ取返スコトハ出來ズ、否デアル、何トナレバ其第三者ハ正當ニ所有權ヲ取得シタワケデアル、質權ノアルト云フコトハ知ツテ居ツタケレドモ、所有權ハ正當ニ得タノデアル、ダカラ追及權ガナイト云フノナラ其占有ヲ奪フ人ニ對シテ損害賠償ヲ求メルコトハ出來ルカモ知レネド、第三取得者ニ對シテハ到底主張ハ出來ナイモノデアル、所ガ此場合ニハ權ニ占

有ス間敷スルモノヲ出來ル、質權ハ基礎ハ占有ヲ回收スルモノデアルカラ出來ル、聞ク機會スレバ賣主取戻者ニ對シテ質權ヲ主張スルカモ知レナイガ出來ル、追及權ニ非ズ、ト云フ何ウヤ、尙ホ理論上カラ申セバ云ヘル、云フモ其他ノ場合ニモ常ニ追及權アリト云フ差支ナイ、先ヅ質權者ハ所有權ヲ付ケテ代理占有者デアル、故ニ質權設定者ガ質物ノ所有權ヲ第三者ニ讓渡シ、而シテ兩人間ノ意思表示ニ因テ質權者ガ從來質權設定者ノ爲メニ所有權ニ關スル代理占有ヲ爲シテ居タノデアル、將來讓受人ノ爲メニ代理占有ヲ爲スト云フコトヲ爲ス、所有權ハ移轉シテ居ル、立派ニ何人ニ對シテモ移轉シテ居ル、而シテ尙ホ質權者ハ此者ニ對シテ質權ヲ對抗スルコトガ出來ル、或ハ占有ガ移テ居ラズ、ケレドモ追及ト云フ言葉ガ行ハレルト云フヤウナコトヲ云フカモ知レナイガ、此追及ト云フ言葉ハ全ク無形ノ意味ヲ以テ居ルノデ一ツノ形容ノ言葉ニ過ギズ、必ズシモ品物ヲ追駈ケテ歩クト云フ意味デハナイ、今ノ場合ニハ占有ガ質權設定者カラ讓受人ニ移テ居ル故ニ無形ニハ矢張追駈ケテ行クノデアル、尙ホ其他ノ場合デモ矢張追及權ガアル、權利ノ讓渡ノ場合モ、動產デアレバ實際所有權ヲカ開題ニ爲ラズ、所有權讓渡

ノ場合ニ引渡ガ必要デアルト云フノスッレバ讓受人カラ第三者ニ其權利ヲ對抗スルニ必要デアルノデ第三者ノ方カラハ其權利ヲ認ムルコトハ出來ル、或場合ニ讓受人ガ惡ハ知ラナイト云フコトハ出來ナイ、或程質權者ハヤガ引渡ス移テ居ラヌ中ニハ所有權ガ移轉シナイノデアル依然トシテ質權設定者ノ所有物デアルト云フ方ガ多クノ場合ニハ利益デアル併シ其レハ言ハナクテモ宜イ、正直ニ所有權ノ移轉シタト云フコトハ認メルガ併シ自分ハ質權ト云フ物權ヲ持テ居ルカラ之ヲ對抗スルノデアルト云フモ差支ナイ、而シテ時トシテハ云フ風ニ言フ方ガ利益デアルコトガアル、レハ讓受人ガ代價ノ一部トシテ質權者ニ辨濟ヲ爲スト云フ約束ヲ爲スコトガアル是ハ非常ナ煩繁ナコトガアル何ノ品物ガ幾ニ這入テ居ル、其レヲ貴殿ニ讓ル併シ是ハ百圓カラ百圓ノ形ニ這入テ居ルノデアルカラ其百圓ハ貴殿ノ方デ拂フタ奥レ二百圓ノ價スナルモノヲ百圓デ賣ルト云フコトアトノ百圓ハ債務ノ辨濟スル約束デアルト、所タ云フコトハ煩繁ナコトデアル、斯樣ナル場合ニ於テハ質權者ハ若シ讓受人ニ資力ガアルト認メルナラバ其讓受ノ奥約ヲ認メテ所有權ヲ移轉シテ云フ事ヲ認メ

タ而シテ其レ故ニ自分ハ貴殿ニ向テ百圓ノ弁済ヲ求ムル成程是ハ質權設定者ニ對スル債務デアルカラ當然債權者ハ此債務ヲ履行ヲ求ムル權ヲ持テ居ルデハナイケレドモ質權者ノ債務ハ質權設定者ノ有スル債務其レヲ代テ行フコトハ出來ル其レヲ代テ行フト云フノハ是非共第人間ノ契約ヲ認メナケレバナラヌ、賣買契約ナラバ賣買契約ヲ認メナケレバナラヌ、其レヲ認メルト殆ド權利ガ移テ居ルト云フコトヲ認メナケレバナラヌ、其レヲ認メテ其代リ債務ノ履行ヲ求メル、是ハ純然タル所有權ノ移テ居ルコトヲ認メテ、質權ノ行使ヲ認メレバ、同時ニ債權ヲ認メシムルノデアル、其レ故ニ經濟動產質デアテモ追及權ヲ生ズルト云フコトハ一點ノ疑モナイコトデアラウト思フ

次ニ優先權

此優先權ハ又之ヲ二ツニ分ツコトガ出來ル、物ニ付テノ優先權ト申シマシテカラ、之ヲ假ニ「留置權」ト名ケテ、シレカラ代價ニ付テノ優先權之ヲ假ニ「先取權」ト名ケル、第一ノモノハ民法、商法ニ所謂「留置權」ト其性質ガ聊カ異ナル、舊民法ノ如キ或ハ佛蘭西法ノ如キハ矢張之ヲ純然タル留置權ト觀テ居ツタデアル、併ナガラ

新民法ハ其ヤウニ觀テ居ラズ、留置權ノ規定ガ準用シテアリマスケレドモ純然タル留置權デアルトハ認メズ、併シ其性質ハ非常ニ酷似シテ居ルモノデアル、留置權ノ名ヲ附シテモ差支ナイモノデアルト考ヘマス、併ナガラ普通ノ留置權ト異ナル所ガアル、其レハ主トシテ普通ノ留置權ニナイ所ノ制限ガアルコトデアル、質權者ハ自己ニ對シテ優先權ヲ有スル者ニハ其留置權ヲ對抗スルコトガ出來ナイト云フコトデアル

第三百四十七條　質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ弁済ヲ受クルマデハ質物ノ引渡ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

此質權者ニ對シテ優先權ヲ有スルト云フモノハ主トシテ代價ニ關スル權利即チ今申上ゲタ先取權ニ關シテ居リマスケレドモ併ナガラ純然タル留置權モ矢張此中ノ一ツデアル、純然タル留置權ハ如何カル權利ヲリモ優先ナガラ、デアル、質權者ノアル場合デモ質權者ヨリハ留置權者ノ方ガ先ニ其權利ヲ行フコトガ出來ル是ハドウ云フ場合ニソレカアルカト云ヘバ、多クハ質權者ノ為

ヌル物ヲ修繕スル物ヲ保管スル質權者ガ質權ヲ修繕ニ進ヲヤセズ、決シテ少ク質權ヲ失セムシテイ、其場合ニハ占有ヲ失ハザリキ其修繕ヲ引受ケタル人ハ質權者ヲ爲スノデアル、故ニ決シテ質權ヲ失ハシナイ、或ハ質權者ガ質物ヲ他人ニ寄託スルコトガアリマス、其寄託ヲ受ケタ者ハ矢張質權者ノ爲ヲ以テ代理占有ヲ爲ス、此等ノ場合ニ於テ其修繕費其保管費ト云フモノハ純然タル留置權ニ依テ擔保セラレテ居ル、此點ニ於テハ其修繕ヲ引受ケタ人、保管ヲ爲ス人ノ留置權ガ質權ヨリ先ニ行ハルル、此事ハ三百四十七條ノ但書ガナクテモ留置權ノ規定カラ當然出テ來ルコトト思ヒマス、其證據ニハ先取特權ニ付テ別段ノ規定ハアリマセスケレドモ同ジコトデアル、抵當權ニ付テモ何等ノ規定モナイガ同ジコトデアル、純然タル留置權ガ總テノ場合ニハ善先ニ行ハルル、デスカラ理論上ハ其レモ三百四十七條ノ但書ニ這入ルト云ヘルガ實ハ餘ニ規定セント欲シタコトデハナイ、重ニ所謂先取權ニ關シテ此但書ノ必要ガアル、如何ナル場合ガ質權者ヨリモ優先ナル先取權ヲ持ツカト云フコトハ決シテ先取權ノ所ガ申上ゲマスガ、必ズサウ云フモノガアルト云フ事ハ今ハ斷言シテ置キマス、先ヅ動產ニ付テ一ツノ例ヲ申上ゲマス、動產ノ修繕ノ爲メニ費用ヲ出シタ所者ハ、動產ヲ賣テ代價ヲ得ルト云フマデニ付テ費用ヲ出シタル者ハ一ツノ先取權ヲ持ツテ居ル、此者ハ質權ヨリモ優先ナル所ノ先取特權ヲ持ツテ居ル、デスカラ其者ハ動ク質權者ガ留置ヲ爲スト云フコトハ出來ナイ、ソレカラ不動產ニ付テ云ヒマスト抵當權デアッテモ先ニ登記シテアル權利ハ質權ヨリ優先デアル、斯樣ニ質權ヨリ優先スル權利ガアルマスカラ其權利ヲ持ツテ居ル者ニ對シテハ此留置ガ出來ナイ、此點ニ於テ純然タル留置權ニ缺ベルト非常ニ效力ガ薄弱デアル、ナゼ斯樣ナ規定ニ爲ッテ居ルカト云フコトニ付テハ先ヅ以テ質權者ガ先取權ヲ持ッテ居ルニ拘ハラズ尚ホ留置權ヲ持ッテ居ルト云フコトガ如何ナル理由ニ因テ居ルダアラウカト云フコトカラ說明サケレバナラヌ、ソコデ考ヘルト其レハ誠ニイラヌ事ノアル代價ヲ拂テ優先ノ辨濟ヲ受ケルコトガ出來ルノデアルカラ留置權ヲ與ヘテ置ク必要ガナイト、斯ク云ハナケレバナラヌ、ソウスルトアル或ハソレナゼ留置權ヲ與ヘテ置クカ、此先取權ト留置權トニ二ツヲ與ヘテ居ルト云フコトハ今申上ゲタ純然タル留置權ト云フ事ガ生ゼル理由ガ、例ハ先取權ノ外

ニ留置權ヲ與ヘルカト云フト、ソレハ債務者ガ早ク辨濟ヲ爲サザル時質物ヲ取返スコトガ出來ナイ、故ニ若シ其質權ノ入用ガアルマデハ之ヲ留置シテ居ッタラ早ク履行ヲスルデアラウ、物ガ使ヘナイト思ッテモ留置サレテ居ッテハ使ハレナイ、此點ハ純然タル留置權ト同ジ理由デアル、質物ヲ賣ルト云フコトハ甚已ムヲ得ヌトキデアル、成ルベクハ辨濟ノアル方ガ宜イ、又實際ニ於テハ單ニ質權ノアル場合デモ債務者ガ辨濟ヲ爲スコトガ多イ、其レヲ催ス一ツノ方法トシテ此留置權ガ必要デアル、併ナガラ純然タル留置權ハ物ヲ賣レバ優先權ハ無クナル、ソレデスカラ之ハイツマデモ留置シテ居ルコトガ出來ナケレバ詰リ留置權ヲ與ヘナイニ均シイコトニ爲ル、或時期ニ於テ留置スルコトガナラヌト云ヘバ同時ニ優先權モ無クナル、其位ナラ初カラ留置權ヲ與ヘナイ方ガ宜イ、其レ故ニ此留置權ハイツマデモ留置シテ居ルコトガ出來ル、ケレドモ質權ノ方ハ別ニ先取權ガ與ヘテアル、ソレデアルカラサウイツマデ留置サシテ置カヌデモ好イ加減ノ時ニ其物ヲ賣ッテ代價ニ付テ辨濟ヲ受ケサシタ宜シイ、質權者ガ損ヲスルト云フコトハ通常ナイ、其レ故ニ此第一ノ理由ト云フモノハ別ニ先取權ヲ與ヘテアルト云フコトノ爲メニ效力ヲ制限セラレテモ差支ガナイト云フコトニ爲ッテ來ル、今ハ早ク辨濟ヲ受ケヤウトセヌデモ自分ノ債權額丈ケニ賣ルト云フ

第二ノ理由、此質權ノ留置權ニハモウ一ツノ理由ガアル、通常ノ留置權ニナイ所ノ理由ガアル、其レハ何デアルカト云フト質物ハ之ヲ賣却スル時期ニ依ッテ其價ヲ異ニスル、此節ノヤウナ不景氣ノ世ノ中ニ物ヲ賣ルト云フト安ク賣レル、而シ半年若クハ一年待テバ景氣ガ回復スルカモ知ラヌ、サウシタラ賣ルト云フト高ク賣レル、質物ノ價ト債權額ガ非常ニ隔ッテ居ル場合ナラ大抵イツ賣ッテモ損ハナイ、或ハ物ノ性質ニ因ッテ取引所デ賣レバ一定ノ相場ニ賣レルト云フヤウナ場合デアルト、多クノ場合ニ損ハナイ、併ナガラ或ハ不動産デアル、或ハ古器物デアル、サウ云フモノニナッテ來ルト不景氣ノ時ニ賣ッテモ賣レナイ、無理ニ賣ラウト思ヘバホンノ二足三文デシカ賣レナイ、買ヲ待ッテ賣ラウト云フナラバ其中ニ良イ買手ガ出ル、景氣ノ好イ時ニ賣レバ債權額ノ幾倍ノ價値ノアル物デモ今直グニ賣ラウト云ッテハ債權額ニ滿タヌカモ知レヌ、故ニ賣却スル時期ト云フモノガ質權者ニ取ッテ餘程ノ利害ノ繋ッテ居ルコトガアル、然ルニ普通ノ債權者ナド

ガ非常ニ急ガシイ時ニ質權者ノ見込デ無ク質物ヲ賣拂ッテ知レ
ヌガ質權者ノ見込デ商人ニ賣ッテ、ナクシテ成カラ始テ賣拂ス時ニ強ク又質ト
ナ其ノ取出債權ノ全額ヲ拂ッテ初出デ勿論有ス物ヲ返ス事モ新キ
ヲ能ル理由ハ質權者ハ之等ノ地位ニ居ル者モ勿ト云ヒ此ノ質權者
ノ中ニモ階級ガアリ得ル其レ次ニ申ス通リ今ニ申ス通リ先取權ノ所デ質權者ノ同時モ
二人以上アリ得ル其中ニ順位ガアル、ソレカラ不動產質ニ付ク先取權者ノ中モ質權者ノ
者ガアル、事ロ其方ガ所イ、ソレカラ不動產質ニ付ク登記ノ順位デ質權者モ幾
人モアリ得ル、或ル中抵當權者ガアリ得ル登記ノ順位ノ後ノ者デアルナラバ質
權者ハ劣等ノ地位ニ居ル其其間等ニ對シテ此言ハル併シ已ニ申スリ優先ノ地
位ニ居ル者ハ例ヘナ言ヘナイ御前ノ見込デ勝ッタ後ニ賣ッタ方ガ宜イ或ハ成ル時ノ後ノ
見込デヤッテ、ナデ又ハ今賣ッタ方ガ宜イ或ハ成ル時ノ後ノ方ガ宜イ云フ、或ル
ソレ見込デヤッテ、ナデ又ハ今賣ッタ方ガ宜イ或ハ成ル時ノ後ノ方ガ宜イ云フ、或ル
濟ヲ受ケ、其ノ餘ノ金ガ餘計殘ルカモ知レヌ、併シ其レハ無論ノ事ニ知ラスコト
ガ自分ハ早ク弁濟ヲ受ケタイ、ダウシテ自分ノ債權額ニ賣レレバ直グニ賣リタ
イッテアルト、斯ウ云フ場合ニ劣等ノ權利ヲ持ッテ居ル質權者ガ之レヲ拒ム為ト

ハドウシテモ出來ヌ筈デアル、其レ故ニ外國ニハ反對ノ例ガ隨分アル、ソレモ拘ハ
ラズ我新民法ハ質權ガ制限ヲシテ質權者ノ方ヲ優先スル權利ヲ持ッテ居ル
者ニ對シテハ質權ガ出來ナイト云フコトヲ定メテ居ル、ソレニ質權ハ質權ハ
以上ガ質權ノ御話デアル、第二ニハ先取權ハ、之ハ國ニハヤッテ來タ
先取權ハ代價ニ付テ他ノ債權者ヨリモ先ニ弁濟ヲ受ケル權利ト云フモノデア
ル是ハ先取特權ト餘程性質ガ似テ居ル、トレガスカラ舊民法ハ質權ト
質權ヲ以テ即チ先取特權ヲ稱シテ居ル、舊民法ニ從ヘバ質權ト云フモノハ
詰リ留置權ト先取特權トヲ集タ物ノ事デアル、ソレカラ不
動產質ハ留置權ト抵當權ヲ集タ物デアル、斯ウ云ハマシタ爲ニ佛國民法系
ノ國民デハ沢山ナ學者ガ居ル併シ戰後法デハ斯ウ云フ議ハ取ラナカッタ、其
レハ詰リ便宜上ノ問題デスガ、ダウシテモ中ニハナラヌ、ダウシテモ仕方ガナイ理由ハナイ、詰リ便利
デアルカラサウシタ質權ハ云フモノハ御承ノ通リ便利デアルトシタノデ、ソレデ抵當權
質權等ノ權利ハ先取特權等ノ權利ト似テ居ルカラ併シ其レハ所ガ違フ、ソ
レハ先取特權ハ譲渡スヤウナノ出來ナ權利ト云フ點ニ於テ質權ハ所有者ニ對シ

デアル質權ハ質權ダケ分離シテ之ヲ讓渡スコトガ出來ルガ留置權ヤ先取特權ハ分離シテ讓渡スコトハ出來ナイ、ソレガ明カニ性質ノ異ナル所デアッテ新標ニ性質ノ異ナルモノデアルカラ之ヲ別ナ權利ト觀タ方ガ便利デアル、他ノ點ニ於テモ異ナルコトガアル、其レハ是カラ申上ゲル所デ分ル

先ヅ此先取權ノ順位ヲ申上ゲマスト、質權者ノ先取權ハ如何ナル順位ニ於テ行ハルルカ、一ハ質權相互間、即チ質權ガ二箇以上存シテ居ルトキニ其相互間ニ於テ、今一ツハ他ノ先取權ニ對シテ、即チ純然タル先取特權及ビ抵當權ニ對シテドウデアルカト云フコトヲ申上ゲマス

質權間ノ順位ハ動產ニ付テハ第三百五十五條ニ設定ノ前後ニ依ッテ其順位ガ定マルト云フコトニ規定シテアル、是ハチョット考ヘマスト動產質ガ同一ノ物ニ付テ二箇以上存スルト云フコトハナイヤウニ思ヘル、又外國ニハサウ云フ說ヲ唱ヘル者ガアル何トナレバ質權ハ占有ヲ必要トスル、殊ニ動產質ハ質權ノ設定ニ付テハモ引渡ヲ要スルノデハナイ、占有ノ繼續ガ必要デアル、少クトモ第三者ニ對シテハ之ヲ必要トスル、其レ故ニ甲ガ質權ヲ持ッテ居ル間、ソレヲ何人ニ對シテモ

持ッテ居ルト云ヘバ占有ヲ持ッテ居ル間デス、其間ニ乙ガ又質權ヲ取得シ、其占有ヲ繼續シテ持ッテ居ルコトハ出來ヌ筈デアルト斯ウ云フヤウニチョット考ヘラルル、無論質權ノ二箇以上存スルノハ稀ナ場合デス、併シ絕無デハナイ、ソレハ種種ノ場合ヲ想像シ得ラルル、例ヘバ甲ガ乙ニ對シテ質權ヲ設定スル、乙ニ質物ヲ渡ス、然ル後ニ甲ガ丙ナル者ニ對シテ第二ノ質權――今一ツノ質權ヲ設定シヤウト思フ、此場合ニ乙ガ丙ノ代理占有者トシテ占有ヲ爲スト云フコトデアルナラバ固ヨリソレデ差支ナイ、サウスルト云フト乙ハ自己ノ資格ニ於テ一ト占有ヲ爲シ、ソレカラ丙ノ代理トシテ亦占有ヲ爲スト云フコトガ出來ル、無論乙ガ自己ノ權利ヲ拋棄スル意思ガアルナラバ問題ハ起ラヌ、問題ノ起ル場合ハ乙ガ自己ノ權利ヲ拋棄シナイ場合、此場合ニ於テハ第三百五十五條ニ依レバ乙ハ丙ヨリモ優先ナル順位ニ居ル、故ニ乙ガ辨濟ヲ受ケテ尚ホ餘リアルニ非ザレバ丙ハ辨濟ヲ受ケルコトガ出來ヌ、今一ツノ例ヲ申上ゲマスルト、是ハ逆マニ甲ガ乙ノ爲ノニ質權ヲ設定スル、而シテ丙ナル者ヲ代理占有者トシテ丙ガ乙ノ爲ニ質權ノ代理占有ヲ爲スト、斯ウ云フコトハアリ得ル、然ル後ニ又甲ガ丙ノ爲ニ今一

ツテ質權ヲ設定スルモノトシタルト丙ハ第三者ニ對シテ自己ノ爲メニ又ハ他ノ占有ヲ爲スカ如キ代理占有ヲ爲シ第二ニハ自己ノ爲メニ又ハ他ノ占有ヲ爲スカ如キ代理占有ヲ爲ル場合ニハ矢張第三百五十五條カ當嵌ル乙甲ニ質權ガ先ニ設定セラレタル以テ之ヲ質權ノ方ガ優先デアルカ云フコトニ相違ナイ、此場合ニ丙ガ忽カニ自分ノモノ丙利益トシテウカ云フコトニ出來ナイ、其レハ占有ノ方ノ理窟カラ出來ナイ、丙ガ新ニ乙ニ向テ自己ノ爲メニ占有ヲ爲スノ權ニフコトヲ擴張スルカ其時ニハ乙ハ占有ト云フモノハ消滅致シマスルトモ、既テ丙ガ自己ノ爲メニ占有ヲ爲スト云フコトハ出來ナイ、尚ホ丙ガ乙ニ對シテ右ノ意思表示ヲ爲シタモ乙ニ丙トノ間ニ今度ハ損害賠償ノ問題ガ起リ得ル、其レ故ニ先ヲ云フコトハ法律上出來ヌト謂ハネバナラヌ、故ニ先ヅ斯樣ナル場合ニ於テハ乙ノ質權丙ノ質權ガ並ビ行ハルルト云フコトニ爲ル、ソレカラソレヨリモット適切ノ場合カモ知レヌガ、第三ノ場合ハ丁ナル者ガ第一ノ質權者タル乙ノ代理占有ヲ爲シテ居ル、質物ヲ丁ニ渡シテ置イタ、ソウシテ今度又甲ガ丙ノ爲メニ第二ノ質權ヲ設定スル、矢張其丙モ丁ヲ以テ代理者トシテ代理占有ヲ爲サシメテ居ルト斯ウ云フ場合、此場合ニ於テモ此丁ナル者ハ乙ノ爲メニモ占有ヲ爲シ、丙ノ爲メニモ占有ヲ爲シテ居ル、惟其順位ガ第三百五十五條ニ依テ乙ノ質權ノ方ガ優先ガアルト、斯カ云フコトニ爲ル、是ハ明文ガナイト云フト疑ハシイノデ、現ニ外國デハ非常カ議論ノ種ニ爲ツテ居ル、ソレ故中ニハ後ノ質權者ガ初メカラ優先ノ權利ヲ持ツテ居ル云フ丁度三百五十五條ノ正反對ノ意見ヲ唱ヘル者ガアル、其ハ全ク誤解カラ出テ居ルノデ、イマモ前ニ占有ガ消滅スルト云フコトヲ前提ニシテ居ル、其レハ誤テ居ル、ソレカラ或ハ書意、原意ニ依テ分ケル人ガアル、其ハ矢張誤テ居ルト思フ、質權ニ云フモノハ元來一ツノ目的物ニ付テ二ツデモ三ツデモ存シ得ル、丁度抵當權ガ第一抵當、第二抵當ト云フ並ビ存スルヤウニ同ジ目的物ニ付テ二ツ以上ノ質權ガ存シ得ルノデアル、即チ占有ハ代理占有ガ出來ル以上ハ第一質權者ノ代理占有ト第二質權者ノ代理占有ト云フモノハ別アリ得ル、少シモ差支ナイ、ソレ故第三百五十五條ノ御規定ガ出來テ居ル、是ハ動產ニ關スル質權者間ノ順位ハ決シテ本動產ノ質權者ノ順位如何ト云フ問題ニ關係ナク、偶然ニ依ル、偶然ニ過ギナイ、不動產質ニ付テハ占有ノ繼續ヲ必要トシテ居リマセヌカ

ラ此等ハ一層明瞭ダアル事ヲ認ムル故ニ古代ノ制度ニ於テハ必要ナシト雖モ現ニ今日ニ於テハ之ヲ
是ナリ質權者間ニ順位ヲ定メ置キ次ノ質權者ト他ノ先取權者ニ對スル順位ハ即チ第一ニ先ヅ
マスレバ先取特權者ニ對シテハ抵當權者ニ對スルノ順位ハ即チ第一ニ先ヅ
先取特權者ニ對シテハ矢張動產ト不動產トダケ區別ヲシテ置クサウスル勿論動
產ニ付テハ抵當權ト云フモノハナイヤウニスル故ニ諸國ニ於テ抵當權ニ關スルモノハ
ソモ不動產質ダケト云フコトハ既ソナイコトデ先取特權ト動產質トダケ關
係ヲ有スルモノデアル故ニ一ツ目ノ問題ニ付テハ三ツマデハ抵當權ト
ノ第三百三十四條ニ先取特權ト動產質權ト競合スル場合ニ於テハ動產質權者
ハ第三百三十條ニ掲ゲタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有スル
即チドウ云フコトニ爲ルカト云フト原則トシテハ動產質權者ト云フモノハ先
取特權者ヨリモ優先デアル總テノ先取特權者ヨリモ優先デアル唯動產質ノ設
定セラレマシタ時ニ既ニ動產保存ノ先取特權又ハ動產質ノ先取特權、種苗肥
料供給ノ先取特權及ビ農工業勞役ノ先取特權ト云フモノガ存シテ居ルト云フ
コトヲ知ラズ居タナラバ、其トキダケハ負ケル質權者ノ方ガ質權ニ付テ既ニ保存

費ガアル場合ニ於テハ質物ニ付テ代價ガ拂ハレテオルダト云フコトヲ知リナガラ
質ニ取ラウト云フ無謀ナル次第デ質權設定ノ際其質物ニ保存費ガ拂ハレテ
居ルモノダケデ良ク保管ヲナシタリトモ宜イ、其者ハ動產保存費ノ先取特權ヲ持ツテ居
ルガ是ハ又ハ質權者ニ先ヅ調ベテ先保存費ノ調査ヲ爲ル其動產ニ關シ
ル權利ヲ保存、追認又ハ實行セザルカ場合ノ費用ダケ、此保存追認ト云フ事ハ
動產質ノ場合ニハ滅多ニ問題ガ起ルマイト思フ、想像スルノナイト思ハレル
レドモ、唯此實行ト云フコトガ頗繁デアル、即チ質物ヲ賣ラウトシテ其代價ヲ取ル
ト云フ場合ニ其質物ヲ賣却スル費用ナドト云フモノハ即チ是ナンデス、是ハ質
權者ニ先ヅ、何ニ此事ニ付テハ競賣法ノ手續ニ從フテ實際必ズ先ニ取ルコトハ爲ラ
ヌ居リマスカラ民法ノ規定ガ假ニ出テカラ其間ニ爲ル、即チ競賣
競賣法ニ定メテアル方ガ宜シイノデアル、是ガ所謂特別ノ動產質ニ於ケル動產
ノ先取特權、即チ所謂特別ノ先取特權ト申フ事ニ成ルデシタ、ソレニ先立チ況ンヤ其特別
ノ先取特權ニ對シテ既ニ先取特權ニハ總テ動產質權ガ勝ツ決ダ
ケ、唯茲ニ又マタ例外ト云フモノガ出ル、其ハ公益ニ關係ガアル場合ニハ動產質權

ナ、最モ優先デアル併シ共益費用ノ先取特權ニ付テハ通ズル場合モアル動産質ニ關シテハ問題ガ生ジナイ、其譯ハ共益費用ト云フ先取特權ト云フモノハ其費用ノ爲メニ利益ヲ受ケル債權者ニ對シテデナケレバ存在シナイ、所ガ通常ノ場合ニハ質權者ハ利益ヲ受ケナイノデス、何トナレバ質物ダケヲ別ニ競賣法ノ簡易ナル方法デ賣却シテ、夫ヲシテ辨濟ヲ受ケルコトガ出來ル、其レ故ニ共益費用ニ因ッテハ利益ヲ受ケナイカラデアル、唯先刻申上ゲタ競賣ノ費用ト云フモノハ質權者ヲ利スルモノデアルカラ、ソレハ質權者ヨリモ優先ナル先取特權ニ依ッテ擔保セラルル、併ナガラ時トシテハ債務者ノ總テノ財産ト同時ニ競賣ニ付スルト云フコトガアリ得ル、サウシテ質權者ガ其同時ニ賣ラレタル物ノ中デ自己ノ質物ノ代價ノ中デ優先シテ辨濟ヲ受ケルト云フコトガアル、此場合ニ於テハ少シハ共益費用ノ一部分ニ付テ此先取特權ガ行ハルル、此點ニ於テハ共益費用ノ先取特權ト云フモノハ他ノ動産ニ關スル權利ノ實行ノ費用ト云フモノトガ同一ノ性質ヲ爲シテ來ルト思フ、是ガ動産ノ先取特權者タル動産ニ關スル先取特權ト動産質トノ關係デアル、今度ハ不動産質ト先取特權トノ關係ヲ申上ゲマス

先ヅ不動産ノ先取特權、即チ矢張特別ノ先取特權、不動産ノ先取特權ト不動産質トノ關係ヲ申上ゲマスルト、是ハ不動産保存ノ先取特權、不動産工事ノ先取特權ニ付テ適法ノ登記ガアッタナラバ其登記以前ニ既ニ登記シテアル所ノ不動産質ヨリモ優先ノ權利ヲ持ッテ居ル、此事ハ多少不明ナル點ガアリマスケレドモ疑ハナイコトト思フ、第三百三十九條ニ依レバ此等ノ先取特權ハ抵當權ニ先ッテ云フコトニ爲ッテ居ル、サウシテ不動産質ニ付テハ抵當權ニ關スル規定ガ準用シテアル

第三百六十一條　不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ス

今ノ規定ハ次章デナクシテ寧ロ前章ニアル、然レドモ抵當權ノ章ニ抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ルト云フコトニ爲ッテ居ル、是ガ質權ニ準用シテアル、サウスルト先ヅ是ガ二ツノ事柄ヲ意味スル、質權ト質權トノ間ニ於テモ登記ノ前後ニ依ル、質權ト抵當權トノ間ニ於テモ登記ノ前後ニ依ルト云フコトニ歸スル、サウシテ見ルト此點ニ於テ質權ト抵當權トハ同一ノ優先力ヲ持ッテ居ル、詰リ登記ノ前後ダケデ違フ質權ガ先ニ登記シテアレバ質權ガ強シ、抵當權ガ先ニ登記シテアレバ

抵當權ガ强キ、而シテ之ニ前ノ第三百三十九條ニ依レバ遺漏ニ登記シタル所ヌ前ニ申上ゲタ二ツノ先取特權ハ如何ナル抵當權ニモ先ツ、即チ如何ニ古ク登記シタル抵當權ニモ先ツ、然ラバ不動產質ニモ先ツコトハ明カデアラウト思ヌ、論文ノ書方ハ多少遺憾ナキ能ハズト雖モ解釋トシテハ明カデアラウト思ヌ、又其一般ノ先取特權、是ハ不動產ニ付テハ全ク登記ノ前後ニ依ルモノデアル、其事ハ第三百三十六條ニ規定ガアル、其レ故ニ詰リ一般ノ先取特權ト不動產質トノ順位如何ト云フコトハ全ク抵當ト同ジヤウニ登記ノ前後ニ依ルト云フコトヲ申上ゲル、尙ホ殘ル所ノ不動產賣買ノ先取特權ト云フモノガアリマスケレドモ是ハ賣買契約ト同時ニ登記シタモノハ大ナル效力ガアルト云フコトニ爲ッテ居リマスカラ、サウスルト云フト是モ畢竟登記ノ順序ニ依ルト云フコトニ爲ル、即チ其賣買ト云フモノガ不動產質設定前ニ行ハレタ、サウシテ登記ヲシタト云フトキニハ此先取特權ノ方ガ不動產質ヨリ强イ、ケレドモ不動產質設定ノ後ニ賣買ガアッタト云フ、少クモ登記セラレタト云フト其外ハ不動產質ヨリモ劣等ノモノニ爲ッテ仕舞フ、次ニ外不動產質權ト、ソレカラ抵當權トノ間ハ唯今申上ゲタル即チ抵當權ノ關係

ル第三百七十三條ヲ準用シテ全ク登記ノ前後ニ依ルト云フコトニ爲ル、デスカラ矢不動產質ニ付テハ詰リ不動產保存ノ先取特權トソレカラ不動產工事ノ先取特權ダケハ遺法ニ登記シテアルト云フト常ニ不動產質ニ勝ツ、其他ノ先取特權及ビ抵當權ハ詰リ不動產質トノ間ニ於ケル登記ノ前後ニ依ッテ其順位ガ定マルト、斯ウ云フコトニ爲ル、是ガ私ガ名ヅケタ「先取權」ト云フモノ、即チ代價ニ付テ辨濟ヲ受クル順位ヲ申上ゲタノデアル

是ヨリ進ンデ其先取權ヲ行フニ付テハ必ズ換價處分ヲシナケレバナラヌ、即チ質物ヲ價ニ換ヘルト云フコトニシナケレバナラヌガ、其換價處分ハ如何ニシテ之ヲ爲スカト云フコトヲ申上ゲナケレバナラヌ、是ハ原則トシテハ競賣法ニ依ッテ競賣スルノデアル、競賣法ニハ明カニ質權者ガ此競賣法ニ依ッテ質物ヲ競賣スルコトヲ得ルト云フコトガ規定シテアル、動產ニ付テハ第三條ニ「動產ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依ッテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スベキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス」トアル、然ルニ留置權者ガアリマスガ、留置權者ハ競賣法デ賣ル權利ハアルケレドモ

其權利ハ代價ニ付テ之ヲ行フコトガ出來ナイ唯普通債權者トシテ辨濟ヲ受クルニ普通ナラバ差押手續ヲシナケレバナラヌノデアルガ又留置シテ居ルカラ容易ク賣ルコトガ出來ル、隨テ配當加入ヲ求メテ來ル者モ民事訴訟法ニ依ルヨリモ少イノデアル、ソレカラ不動産ニ付テハ矢張同ジヤウナ規定ガ競賣法ノ第二十二條ニアル「不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者。質權者。抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ為サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ為ス」是ガ本則デアル、之ニ對スル例外ハ先ヅ動産質ニ付テ民法第三百五十四條ニ特別ノ規定ガアル「ソレニ付テハ必ズ換價處分ヲシナクテハナラヌ但シ動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限リ鑑定人ノ許價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス」[illegible]斯ウ云フ規定ガアル、即チ競賣法ニ依ラズ鑑定人ノ許價ニ從ツテ質物ヲ辨濟ニ充ツル、ソレハ正當ノ理由ガナケレバ許サヌ、ソレヲ裁判所ガ認メテ賣ハセヌヲ

ヌ、正當ナ理由ト云フハ其物ノ性質ニモ依ル例ヘバ古器物ナドデ所謂競賣ヲ為シテ競賣スルト失敗シ安ク賣レル、然ルニ債務者ハ丁度古器物ノ愛玩者デアル、故ニ鑑定人ノ許價ニ從ツテ相當代價、即チ競賣デ賣ルヨリハ實際高ク買ヒ上ゲルコトガアリ得ル、斯ウ云フ場合ニハ却テ其方ガ債務者ノ利益デアルカラ裁判所デ其事實ヲ認メタナラバ許ス、ソレカラ或ハ祖先傳來ノ物ナドハ諸君債權者ガ競賣シテモ宜イト云フテモ此場合ニハ他人ノ手ニ渡スノハ如何ニモ殘念デアル、又當事者ガ引受ケルト云フコトモアリ、ソレカラ又或時期ニ依テ平生ナラ競賣デ買ツテモ相當ノ代價ニ賣レルデアルケレドモ其時期ガ非常ニ悪イ、銀行ノ金融ガ逼迫シテ時期デアルカラ買手ガ附カヌ、隨テ安ク賣レルダラウト云フヤウナ場合ニモ債權者ガ相當代價デ引受ケルト云フコトガアリ得ル、ソレカラ又ソノ正當ナル事由ガアレバ債權者ガ鑑定人ノ許價ニ依ツテ質物ヲ讓受クルコトガ出來ルト為ツテ居ル、ソレカラ今一ツハ是ハ動産、不動産ニ通ズルコトデアルガ、債務「ノ期限ガ來ヌ內ニ協議ヲ以テ債權者ガ質物ヲ引受ケル、詰リ代物辨濟ニ為ス或ハ其他ノ質權者ト質權設定者ノ協議ヲ以テ第三者ニ賣却スル、其レ等

ハ當事者自由ノ意思ヲ以テ質物ヲ處分スルコトヲ許サヌト云フ規定デアル、其ノ以テ
一ツノ質權ヲ設定スルニ當リテ其ノ處分方法ヲ協議シテ定メテ置クコトガ出來ヌト云フ趣旨ナ唯
法律ノ定ムル方法ニ依ラズシテ居ルノデハナイ、サレバ如何ナル方法ニ依リテ質權設定行爲又
ハ其後ニ於テ當事者ガ債務ノ辨濟期前ニ爲シタル契約ヲ以テ法律ニ定メタル方
法以外ノ方法ヲ以テ質物ヲ處分スルト云フコトヲ約束スルコトハ許サヌノデアル、
其レハ即チ第三百四十九條ニ明文ガアル、是ハ西洋ニモ隨分例ノアル規定デアッテ
決シテ我ガ國獨リ信ズル所デハナイ、此規定ハ舊式ノ規定デアル、此趣意ハ金ヲ借リテ居ル債務
者ガ自己ニ不利益ナル條件ヲ以テ質契約ヲ爲ス虞ガアルカラト云フノガ其ノ立法ノ理由
デアル、即チ金ノ入用ノアル者ハ隨分ニ不當ナル條件デモ金ガ欲シイト云フ所カラ非
常ニ不利益ナ條件、例ヘバ千圓ノ價アル物ニ對シテ五百圓ヲ貸シ而シテ期限ニ
辨濟ヲセヌナラバ其質物ヲ債權者ガ取ルト斯ウ云フコトニシ五百圓ダケ債務者
ニ不利益ナ契約デアルガ、斯ウ云フ契約ヲ爲シテ之ヲ爲スコトガ出來ヌ其ノ千分ノ
理由ヲ以テ爲シタル契約ハ法律上ハ無效ト爲スト云フ趣意デ
アル、是ハ頗ル重大ナ點ニ於テ疑ヲ存スルノデアル、斯様ナル理由ナラバ債務者ガ自由

ヲ質權ヲ設定シタトキデナケレバ適用ハナイ筈デアル、第三者ガ質權ヲ設定シ
タトキニハ適用ガナイ筈デアル、第十二條ハ其理由ガ正シイモノナラバ抵當權ニモ
付テ同一ノ規定ガナクテハナラヌ、尤モ抵當權ニ付テ何ホド其必要ガアルト聞
ハヌガ、ナゼヌ、不動産ナレバ假ニ賣ラレタトシテモ容易ニ賣レヌモノデアルカラト云
ヲ契約ガ行ハレ易イ、然ルニ抵當權ニハ同一ノ規定ガナイ、第三ニ不完全ナルモ
ハ不十分ナル理由ニモシロ設定行爲ヲ以テシタノハ禁ズルト云フコトハ分ルガ、
其後ノ行爲ヲ以テ約シタモノマデ禁ズルト云フノハドウ云フ譯デアルカ、モウ金
ニ借リテ仕舞ッテ期限ノ來ルマデハ債權者ハ何等ノ要求モ爲スコトハ出來ヌ、
然ルニ其間ニ爲シタ契約モ無效デアルト云フノハ何ノコトデアル、契約ノ自由
ヲ失ッテ居ルト云フコトハ決シテ當ヲ得タノ期限ノ來ルマデノ自由ナシデス、却テ
期限ガ來テカラコソ本當ニ拂ハヌト言フコトヲ許スノデアルカ知レヌト云フ處モア
ルカラシテ却テ不利益ナ契約ヲ爲スカモ知レヌ、是ガ至ルノ理由デアルト
考ヘマス、倘ホ第四ニハ此規定其レ自身ガ甚ダ誤レガナイト云フコトヲ申シタ
ト思フ、斯ウ云フ規定ハ舊式ノ法律ニハ隨分例ガ多イ、或ハ利息ヲ制限シテ見タ

リ、或ハ質屋ノ場合ニ於テ質物ヲ預ケテ置イタ物ハ何時デモ取返シテ來ル債務者ガ期限ニ至ッテ權利ヲ行使シテ取リ戻シテ利息ヲ取ルモノデアル、サウシテ法律ノ規定ガ極メテ其通リヲ誤ッタ考ヘヲ以テ悪イト見テ居ル金ヲ借リル者ハ質物ヲ置ク者、其レハ自由ノ貧乏人デアル、貧乏ナ人ヲ憐レムベキ者デアル故ニ之ヲ保護シナケレバナラヌト云フ理由デ成ル、ヲ居ル、其レガ爲メヲ間違ヒデアル、質屋ハ金ヲ貸スル者ハ必ズシモ貧乏人デハナイ、金持程餘計金ヲ借リテ餘計儲ケルコトヲ考ヘテ居ル、ソレヲ利用シテ居ル、實際モ國家ニ有用ナ金持デアルナラバ金ヲ持ッテ居ル者ニ云フ所ノ經濟上ノ氣力ナリ金持ナリ國家ノ爲メ其持主ガ儲ケテ居ルノデアル、又實際働イテ居ル者ハ皆自分ノ資產ヲ以テ働イテ居ル程信用ガアルカラ又金ヲ借リテ試ミニ銀行ヲ御覽ナサイ、其銀行程借金ガ多イ、且ツ金ヲ多ク銀行ニ預ケテ居ル者ガ、預ケタ金ヲ云フモノハ皆債務者デアル、ソレデ銀行ハ最モ大ナル債務者デアル、ソレ故ニ今日ノ銀行ハ民法デ貧乏人ヲ保護シテ金持ヲ抑ヘルト云フ理由ガ成リ立ツカ如何ナル、ソレハ間違ッテ居ル、ソレナラ他ニ自ラ方法ガアル、貸借其他ノ契約、先ヅ原則トシテ雙方ノ利益ニ於テ行ハルベキモノデアル、貧乏人ヲ損スル金持ガ儲ケル、斯ウ云フ譯ハ諸事柄

ハ民法ノ規定ニ依ラズ他ノ社會ノ制度ニ、缺點ガアルカラ其結果ニ外ナラヌ、第三ニ讓ッテ居ルノデアル、之ヲ保護スルニ其途ヲ得ナイ、債務者ヲ苦シメル事柄ハ申シマセヌ、例ヘバ今御話申シテ居ル質權ニ關スル制限ノ如キ保護ニ付テ何ニモナラヌ、斯樣ナ契約ヲ結ブコトガ出來ナイト云フ上、其結果ハ大ナル先ヅ正直ナ債權者ハ時トシテ金ヲ貸サナイ、唯普通ノ質物デ貸ス以上ノ利益デナイカラ今貸サナイト云フカモ知レヌ、又特別ノ利益ヲ附シテ期限ニ至ッテ辨濟セヌナラバ其質物ハ債權者ガ取ルト云フコトモ必ズシモ債權者ガ不當ノ利益ヲ得ルト云フ譯デハナイ、契約ヲスル時ニ期限ヲ定メ、競賣ト云フ程煩ハシイモノデナイ、強制執行ヲ競賣法ノ手續ハ簡略デアルガ然シ餘程煩ハシイ、時ガ掛カル、サウシテ其競賣ノ價ト云フモノハ安イ、甚ダ日數ガカカル、西洋デモサウダガ、其レヨリ任意賣買ノ方ガ高ク賣レル、競賣ハ行ハレ易イ、競賣ナルモノハ平穩デアルカラ其方ガ宜シイト云フナラバ、債權者ガ競賣ニ依ッテ安ク賣ッタ場合ニ於テ、其ノ代リ金ヲ取ルト云フモ知レヌ、況ヤ其外ニ費用ガ掛カル、其費用ヲ差引ケバ不足ヲ生ズルカモ知レヌ、

タルモノ時ハ長ク掛ル故ニ自分ガ相當ノ代價ヲ引受ケタイト云フマトガアリ得ル、ソレ故無率ナイト云ハズソンナラ貸サスト云フ、ソレハタダ所謂高利貸ナルト謂フスル時トシテ不當ナ利益ヲ貪ラウト云フヤウナ人ハ民法ノ一箇條位ハ屈トモ思ハズ、之ヲ禁ルコトハ容易デアル質ト云ハバ三百四十九條ノ適用ヲ受ケル外ノ名義ヲ以テスレバ容易デアルガソレハ例ヘバ先ヅ質物ヲ買フ質物ニ對シテ金ヲ貸スコトハ出來マセズ、其質物ニシヤウト云フ物ヲ私ニ買ッテ下サイ、其代金一定ノ期限ノ後此代價ヲ御返シニナレハ其物モ御返シスルト、斯カ云フコトヲ言フ、金ヲ貸シテ質物ヲ取ッテ置イテ期限ガ來テ返デナカッタラ之ヲ債權者ノ所有物トシヤウト云フ見込デアルガ、其レヲ今ヨリ所有物トシテ其ノ期限ガ來タ金ヲ返シ得ラ渡サウト云ヘバ國ジコトデアル、デカスレバ質契約ヲ結ブウト思フタ債務者ハ必ズソレヲ承諾スルニ違ヒナイ、デカスルト三百四十九條ヲ適用スルコトハ出來ナイ、成程其レガ詐欺ニ出タ居ル上ニ又ヲ用ヒタラバ無效デモウガ、ソウ云フコトハ滅多ニナイ、用心深キ債權者ハ三百四十九條ヲ潜ルト云フ決シテ言ヘナイヤウニ工夫ノデアル、然ルニデスカラ斯ウ規定ハ何ニモナラズ

スルモナラズ良民ノ爲メニハ邪魔ニ爲ル、業ヤル費三百四十九條ハ未成年ヲ入レタ箇條デスガ、ソレ實業家ハ大體デ四十箇條デ十分ナリ、ソレカラ商法ニハ適用シナイト云フ箇條ヲ設ケタ、ソレデ商業上ニハ適用ガナイ故ニ本條ハ極ク適用ノ狹イモノデアル商法第二百七十七條一方ニハ抵當權ニ關マラズ他ノ一方ニハ商行爲ヲ因ッテ生ジタル債權ノ擔保ニハ關マラズ、實ニ適用ノ狹イモノデスハ來ル、[illegible]

殊上ハ動產質、不動產質ノ事ヲ申上ゲタ、權利質ハ前問ニ說明シタト思ヒマスガ、純然タル質權デハナイ、併ナガラ矢張準質トモ稱スベキモノデ之ニ質權ノ規定ガ適用シテアル、此權利質ニ付テハ原則トシテハ純然タル質權ノ規定ガ準用シテアル、而シテ其權利ガ動產ニ關スルカ不動產ニ關スルカ動產質ノ規定ガ適用セラルルカ、不動產ニ關スルナラバ不動產質ノ規定ガ適用セラルル、其他ノ場合ニ於テハ單ニ總則ダケガ適用セラルルト謂ヒマシタカラ、ソウデアル、所ガ動產上ノ權利デ質權ノ目的ト爲ルト云フヤウナコトハ實際滅多ニナカラウ、之ト思ヒマス、動產ニ關スル權利ト云ヒマスト次ニモ債權ガ他ノ債權ニ對シテ特別ノ規定

ヨリテ明カナリトスルモ其他ノ事ハ概ネ總ヲ總則ト動産質ノ規定ガ民法ノ思想通
對權、永小作權ノ質入ヲアルモ是ハ總テ不動産ニ關スル規定ガ民法ノ債
權質ニハ特別ノ規定ヲ設ケタル今先取特權ダケニ付テ申シヤウスト、債權質ノ順位ハ
是ハ彼ノ通知又ハ承諾ノ前後ニ依テ定マル、ソレ以外カラ甲ガ或債權ヲ質權ノ
目的トシテ居ルナラバ其後乙ガ同ジ質權ヲ質物トシテ取ルコトハ出來ヌト云
フ譯デハナイ、理論上出來ル即チ此證書ノ占有ト云メモノ銀行ニ度質物ノ占有見
タヤウニ證書ノ交付ニ依テ質權ガ設定セラルルト云フカラ其應ニ代理占有ノ
運命ヲ當然メテ見ルト一ツノ債權ニ付テ二ツ以上ノ質權ガ生ズルコトハ
イ其權利ノ前後ハ如何ト云フトソレハ通知又ハ承諾ノ前後ニ依ル而シテ此場
合ニハ公正證書又ハ確定日附ノアル證書ヲ以テ證明シタレバ大ヨロシ、是ハ特ニ
非常ナ稀ナ場合カモ知レヤウガ他ノ效力即チ債權質トソレカラ先取特權トノ
關係デス、外ノモノトノ關係ハイ、先取特權ノ中ニハ債權ヲモ目的トシテ居ル
モノガアル、是ハ無論質權ノ方ガ先ツ、債權ヲ目的トシタル先取特權ト云フト勇更
ノ保證金ト云フモノガ沢リヤウガ、其レハ更ニ質權ノ上ニ出來ル

セヤウト問題ガ起リ易ク、是ハ無論ナル質權ノ方ガ一般ノ先取特權ニ勝ツノデ
ス、此事ハ質權ノ性質ガ一般ノ先取特權ヨリ勝ツノデアルト云フモノガ明カデ
アリマスカラ明文ヲアリマセヌケレドモ此事ニ付テ疑ヒ起ルコトハ思フ、强ヒテ
カ言ヘバ此等ニ動産權ニ規定ノ準用ト云ヒカタモ知レヌガ始メ疑ヒナイ點デ
アルカラト思ヒマスケレドモ順位ノ問題デハ別ニ定マラヌガ、ソレニカラ實行方法ニ付テ
債權質ニ共通タル特別ノ規定ガアル、即チ債權質實行ノ方法ハ原則ニ取立デアル、
質權者ハ自己ノ債權ヲ擔ヲ限度ニ於テ質權ノ目的タル債權ヲ取立テ爲ス事ガ出來
ル、是ガ普通ノ方法デ其債權ノ目的ガ金錢デナイカ、ソレトモ辨濟ヲ

受ケナイ、サウシテ其辨濟ヲ受ケル迄ハ質物ヲ留メテ之ヲ占有スルコトガ出來ル、其外ニ於テ債權質ハ單純然タル動産質ト爲ス、不動産ト立テヽ想像スレナイデアルガ、其場合ニハヤヤモスレバ證券債權ノ債務者ガ拂ッテモ宜イ期限ノ到來シナイ内デアルナラバ、其時ニハ辨濟ヲ受ケルコトハ出來ナイノデス、唯供託ヲ求メルコトガ出來ル、サウスルト其供託金ノ上ニ質權ガ存スルコトニ爲ル、是ガ原則、例外ト致シマシテハ民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依ルコトガ出來ルト云フコトニ爲ッテ居ル、ソレハ第一ニハ轉付命令、是ハ取立テアルノデナクシテ質權ノ目的タル債權ヲバ移サセテ質權者ノ質權トシテ仕舞フ、其結果ガ質權者ノ質權設定者ニ對シテ持ッテ居ッタ債權ニ付テハ即チ廣イ意味ニ於ケル一ツノ更改ガアル、ソレカラ今一ツハ裁判所ニ於テ換價命令ヲ求ムルコトモ出來ル(民事訴訟法ニ定メタ場合ニ限ッテ)併シ此場合ニハ競賣法ヲ適用スルコトハ出來ナイ、競賣法ニハ債權ノ競賣ト云フモノガ規定シテナイ、質權ノ實行トシテノソレハイラナイトシテ規定シテナイ、故ニサウ云フコトハ出來ナイ、民事訴訟法ニ依ッテデナケレバ換價處分ハ出來ナイ、ナゼサウ云フコトニ爲ッテ居ルカト云フト債權ナラバ取立テルノガ本則、換價處分ナゾハ滅多ニアルベキモノデハナイ、何カ特別ノ理由ガナケレバ之ヲ許サヌト云フノガ本則デアル、ソレニハ民事訴訟法ノ原則ニ依ッテ裁判所ノ許可ヲ得ナケレバナラヌ、其結果競賣法ニ債權ノ競賣ノ規定ガアリマセヌガ是ハ或ハ缺點デアルカモ知レヌ、成程質權ノ實行トシテハ債權ノ競賣ハイラナイヤウデアルケレドモ例ヘバ株式ノ競賣ナント云フモノニナッテ來ルト、是ハ私共ガ見ルト矢張債權ノ競賣デアラウト思フ、其規定ガナイト云フコトニ爲ル、隨テ此場合ニ如何ニスベキカト云フコトガ今日問題ト爲ッテ居ル、或説ニ依ルト詰リ法律ニ規定ガナイノダカラ競賣ト名ノ附クモノナラ勝手ニヤッテ宜イト云フ、ソレナラバ競賣ニハ及バヌ、併シサウ云フ説ガ一部ニ行ハレテ居ル、私共ノ信ズル所デハソレハ大變誤ッタ解釋デ、法律ニ依ラナイ競賣ト云フモノガアリ得ル筈ガナイ、是ハ株式ハ有價證券デアル、ソレデ有價證券ハ民事訴訟法ニ明カニ有體物トシテアル、ソレデ競賣法ノ立法者ハ手續ハ重モニ民事訴訟法ニ依ッテ居リマスカラ矢張動産ノ競賣トシテ規定シタモノト見ナケレバナラヌ、即チ株式其他ノ有價證券ニハ即チ動産ノ競賣ニ關スル規定ヲ適用スベ

キモノデアルト思フ、斯様ナ訳合デ普通ノ債權質ニ付テハ就買法ノ適用ハナイ、尚ホ彼ノ第三百四十九條ノ流質禁止ノ規定ハ採ルベレデ實業家ヲドウ不便ヲ感ジマシタカラ商法ニ其適用ノナイコトヲ定メタ、不動産質カドウ商業上ニ殆ドアリマセヌカラ主トシテ債權質ノ爲メニ之ヲ設ケタノデアル

以上ヲ以テ質權ノ效力ノ中デ追及權トソレカラ優先權ノ御話ヲ略ホ終リマシタ、終ニ不可分權

是ハ要スルニ債權ノ一部ヲ辨濟シテモ質權ノ一部ガ消滅スルト云フ譯デハナイ質權ハ全部存シテ居ル質權ガ一部消滅シテモ矢張其殘リノ質權ハ債權ノ全部ヲ擔保スルノデアルト、斯ウ云フ意味デアル例ヘバ千圓ノ債務ノアル場合ニ五百圓ダケ履行シタト云フモソレガ爲メ質物ガ二ツアルトキニ一ツノ質物ハ返シテ呉レト云フコトハ出來ナイ、ソレカラ質物ガ二ツアル場合ニ其一ツガ天災ニ因テ滅失シタカラト云テ殘リノ一ツガ債權ノ半分ヲ擔保スル譯デハナイ、今ノ例ニ於テハ千圓ヲ擔保スル此事ハ債務者ガ初メ一人デアッタモノガ數人ニ分レタト云フヤウナ場合ニ最モ適用ガ多イ相續人ガ二人以上アルト云フヤウ

ナ場合ニ最モ其不可分權ノ働ガ明カニナルノデアリマス、是ハ六ケ敷イコトデナイカラ說明ヲ略シマス

是デ質權ノ效力ノ御話ヲ終リマシタ

緒言

第一章　國家ノ法ニ關スル

第一節　國家ノ法ニ關スル

[illegible]

生徒　[illegible]

講師　然ラバ商賣主ト看做サルル商人ハ何人ヲ對ヲ賣買ノ目的ト為シ商品ヲ移轉スルノヲ民法民訴定ヲ從ヘハ相手方ニ財産權ヲ移轉スル意思表示ヲ爲スヲ賣買ノ目的ト為シ其ノ結果ハ商品ヲ引渡ヲ爲ス者ナリ且ツ商賣ヲ目的トスル商品ヲ引渡ヲ爲ス者ハ如何ナル種類ノ商品ヲ引渡ヲ爲ス者ト定ムルヤ

生徒　乙ニ此切手ノ性質ハ無記名證券ニ類シ其ノ譲渡ハ單ニ引渡ノミニ因リ且ツ其ノ譲渡ハ譲渡人ノ責任ヲ負ハシメサルモノナリ

講師　君ノ説ノ如クンハ或人ニ對シテ有價ニ無記名式ノ手形ヲ振出サシムルモ賣買ト同ハナルヘカラサラン何トナレハ此手形モ一ノ動産ニシテ譲渡レハ即チ故ニ本問ノ場合ニ於テモ切手ノ所持人ヨリ有價ニ之ヲ讓受クルハ賣買ナル場合アリト雖モ第一ノ所持人即チ切手ヲ賣出サシメタル者ハ切手ノ賣主ト謂フコトヲ得サラン

講師　之ヲ所持人ニ渡シ商品ヲ切手ハ稱ニハ買主又ハ其代理人タルコトヲ證明シ其ノ商品ヲ使用ス賣買者ノ前金拂賣ニ於テ其ノ場合ニ於テハ商品ヲ引渡ヲ爲ス者ハ其ノ場合ニ於テハ商品ノ給付ヲ相殺シ一種ノ無記名證券ヲ發行シ有價ヲ約シ然賣買ニ關スル規定ヲ準用シ受渡ヲ爲サシメ尚ホ商品切手ニ關シ其ノ他規約ノ上更ニ說明ス

講師　生野邊ニ海産物販賣器具類ヲ或器械ニ作用ニ依リテ所産ヲ食物ヲ給スル人ハ賣買ニ非スト雖モ民法民訴規定ニ從ヘハ賣買ニ非スト雖モ物ノ相手方ニ對シ財産權ヲ移轉スル意思表示ヲ爲スヲ賣買ト謂フ故ニ本問ノ如キ場合ニ於テハ賣買ニ關スル行爲ニ賣買ト謂フヲ得サラン

講師　然ラバ君ハ單純ナル特定物ノ賣買ハ之ヲ認メサルヤ

生徒　我民法ハ所有權ト認ツタシ然ルニ賣買ハ之ヲ單ニ債權ナリトス

師　大原則ナル特定物ノ賣買即チ特定物ノ所有權ヲ直チニ移轉セラルル場合ノ賣買ハ民法上賣買ナリヤ否ヤハ議論ナキニ非ザレトモ予輩ハ此場合ニ於テハ賣買契約ニ因リテ生シタル物ノ所有權移轉ノ義務ヲ之ト同時ニ行ハレタル所有權移轉ノ爲メニスル所謂物權的契約ニ因リテ履行セラルルモノニシテ之ヲ賣買契約ナリト謂フテ妨ケスト解スル者ナリ自動販賣器ニ依ル賣買又ハ契約ノ締結ハ物ノ引渡代金ノ支拂ヲ同時ニ行ハルル賣買ニ對シテハ鶴巻ノ學者ハ之ヲ既成賣買(レアルカウフ)「ナツラルカウフ」又ハ「ハンドカウフ」ト稱シ契約ハ物ノ引渡代金ノ支拂ナル行爲ニ依リテ成立スルモノニシテ賣買ニ非スシテ一種ノ既成契約ナリト說明スルヲ常トセリ然レトモ予輩ハ此場合ニ於テモ賣買ノ申込ト承諾ハ默示ニ存在スルモノニシテ賣買契約ト之ニ因リテ生スル雙方ノ義務ノ履行トハ同時ニ行ハルルモノト解シテ支障ナシト考フ唯實際ニ於テハ賣買ニ非ザルトスルモ賣買ニ關スル規定ノ準用アルヲ以テ效果ニ於テ異ナル所ナカルベカラザルモノニシテ買主又ハ其外買人ハ

交互計算匿名組合ニ付テノ疑問

法學士　松本　烝治

師　交互計算ハ如何ナル商行爲ナルヤ組合ハ何ヲ目的トスル場合ニ於テ

生徒　商法第二百六十五條ノ附屬的商行爲ナリ何トナレハ交互計算ハ商人間又ハ商人ト非商人トノ間ニ行ハルルモノニシテ商人タル當事者ニ取リテハ其營業ノ爲メニスル法律行爲ナレハナリ

師　然リ然ルニ其契約ハ民法上ニ於テハ如何ナル契約ノ範疇ニ屬スルヤ

生徒　相殺ノ契約ナリ即チ雙定受期債務ニ生スル債權債務ヲ相殺シテ消滅スル契約ナリ

師　相殺ヲ言ヒタルハ所カ果シテ民法上ノ相殺ヲ指サルルモノトスレハ雙約

[illegible]務ヲ要セサルニ非スヤ[illegible]民法上ハ[illegible]

生徒　民法上ニ於テハ相殺ハ即チ雙方ノ債務カ其期限ノ到來後ナラサレハ之ヲ援用スルコトヲ得スト雖モ交互計算ニ於テハ期限ノ到來ヲ要セス故ニ交互計算契約ヲ爲スノ必要アリ

講師　交互計算ニ在テモ特ニ相殺ヲ爲スヘキ期間後ニ到來スヘキ期限ヲ附シタル債權債務ノ如キハ之ヲ相殺スルコトヲ得サルヘシ如何

生徒　只今ノ答ハ誤レリ唯民法上ノ相殺ハ同性質ノ債務ナルコトヲ要スルモ交互計算ニ於テハ必スシモ同性質タルコトヲ要セス[illegible]交互計算ハ商人間

講師　同性質タルコトヲ要セストセハ其場合ハ例ヲ以テ言ヘハ如何ナル場合ナルカ

生徒　互ニ代替物ノ債權者債務者タル場合ノ如キナリ

講師　君ノ言ハルル所ハ少シク解シ難シト雖モ性質ヲ異ニスル債權債務ヲ相殺シテ消滅セシムルカ如キハ想像スルニ苦ムナリ

講師　更ニ問ハンニ第二百九十一條ニ所謂「債權債務」トハ如何ナル債權債務ヲ謂フ[illegible]書ハ[illegible]如何ノ問題ニ付テハ有力ナル二説アリ一説ニ依レ[illegible]

生徒　答[illegible]ハ第二ノ問題

講師　交互計算ニ於テ相殺スヘキ債權債務ハ金錢債務ニ限ル[illegible]云フ[illegible]學者間ニ異論アル所ナリ我商法ノ明文上ハ金錢債務ニ限定セ[illegible]規定ナ[illegible]ニ事實上金錢債務ニ限ラ[illegible]

講師　要スルニ交互計算ハ民法上ノ[illegible]契約ナルコト明カナレトモ民法上ノ無名契約[illegible]一種獨立ノ契約[illegible]

生徒　然ラハ商法第三百九十一條及ヒ第三百九十三條ノ「相殺ヲ爲ス」ナル文字ハ無意味ナル[illegible]

講師　[illegible]所謂「相殺」ナル文字ハ計算上ノ消シ合スノ意ナリ[illegible]民法上ノ相殺[illegible]交互計算ニ於テ[illegible]テ[illegible]ル所ノ文字ヲ用ヒタル[illegible]又ハ交互計算ノ性質ニ付テ[illegible]議論アル所[illegible]點ニ付テ[illegible]説明セサル[illegible]

第四ハ交互計算契約又ハ[illegible]ハ[illegible]當事者間ニ生シタル債權債務ハ之ニ組入ルル[illegible]ノ債權債務ト[illegible]例ヘハ賣買ニ關[illegible]ヲ生スル債權債務モ不法行爲ヲ因リテ生ズル債權債務モ同シク交互計算ノ一ノ項目ト爲ルカ故ニ前ノ債權債務ハ當然消滅シ新ナル債權債務ヲ生ス[illegible]即チ交互計算ニ組入レタル債權債務ハ更改ニ因テ[illegible]且消滅シ一ノ不可分離的ノ債權ノ[illegible]ノ一個ト爲リ殘額ノ支拂ハ此一個ノ債權債務ノ差引殘額ヲ支拂フ[illegible]ノナリト說明スル者アリ是レ獨逸學者ニ多數カ唱フル所ナリ然レトモ我商法ハ規定ヲ見ルニ此說ヲ採ルヿヲ根據ニモアルコトナシ故ニ交互計算契約ヲ爲シ各個ノ債權債務ヲ其項目ニ組入ルルモ更改ハ生セス即チ舊債務ハ舊債務トシテ存スルモノニシテ新ナル債務ニ更ルコトナシトスル多數獨逸學者ノ一致スル所ニ從ヒテ支障ナシ故ニ賣買ニ基ク生シタル債權ニ依然賣買ニ因リテ生シタル債權ニシテ之ニ附屬スル種種ノ權利例ヘハ擔保權抗辯權ノ如キモ亦依然存在スルモノナリト爲シテ可ナリ然レトモ第二ノ問題タル計算書ノ承認ノ效力如何ノ問題ニ付テハ有力ナル二說アリ一說ニ依レ

[illegible]其已認ニ於テ生ル債務ハ消滅シ殘額支拂ノ新債務ヲ生ス即チ更改ヲ生スルモノナリト曰ヒ他說ニ依レハ計算書ノ承認ハ一ノ附屬的約束タルニ過キスシテ更改ヲ生ズルヿヲ[illegible]曰ス獨逸ニ於テハ最二說互ニ相下ラス獨逸新商法參考書ノ所載ノ如キ又獨逸最高裁判所ノ判決ノ如キ非更改說ニ傾ケリ[illegible]モノナレトモ我商法ノ解釋トシテハ計算書ノ承認ニ因リテ更改ヲ生ス[illegible]ハ新債務ヲ生スト解スルヲ可トス其理由ハ第二百九十一條ニ依レハ交互計算ニ於テハ殘額ノ支拂ヲ爲スヘキヿヲ約スルモノニシテ殘額ノ支拂ヲ約スルハ其殘額ヲ一個立債務タルヿヲ認メルモノニ外ナラス然ルニ商法第三百五十九條ニハ「計算カ承認セラレタルトキハ其計算ニ依ルニ非ラレハ差引殘額ヲ請求スルヿヲ得ス」ト規定セリ之ニ對スルレーニスル氏ノ理由書ヲ見ルニ更改說ニ依レルモノナルヿヲ明カニシテリ故ニレーニスヒル氏モ更改說ヲ採リタルモノニシテ其趣旨ハ舊商法ニ規ハレ又新商法ノ參考書ニ說レハ新法モ亦舊商法ニ於テルト同一主義ヲ採レルモノノ如シ故ニ殘額支拂ノ債務ハ新ナル債務ナリト解セサルヘカラス[illegible]ハ此說ヲ採ルトキハ例ヘハ擔保權

[illegible]保ヲ用ヰタルトキハ場合ニ於テハ[illegible]ノ債権債務ヲ承継スルモノトシテ[illegible]ハ快然存続スルモノ[illegible]ハ消滅スルモノニ至ルヘシ[illegible]商法ハ[illegible]別規定ヲ設ケ其消滅セサルヘキコトヲ定メタルヲ非更改説論者ハ之ヲ以テ更改説ヲ駁スルノ根據トモ[illegible]スタウブノ如キハ擔保ハ當然消滅スルヲ以テ之ヲ消滅セサルコトトスル為メ便宜規定ヲ設モノニアラスト謂ヒテ更改説ヲ排駁セリ正十六年[illegible]

生徒　第二百九十二條ニ所謂一定ノ期間内ノ取引トハ如何ナル意ナル[illegible]

師　取引ナル語ハ民法ニモ之ヲ用ヰ即チ民法第百四十二條ノ如シ又民事訴訟法ノ裁判所ノ管轄ノ條ニモ第十六條ニモ此語ヲ用ヒタリ又商法ハ多ク商取引又ハ取引ナル語ヲ用ヒ其意味ハ商行為又ハ行為ニ該當スルコトヲ明カナラシメタレトモ新法ニ用ヒタル取引ナル語ハ甚タ漠トシテ明カナラスト雖レトモ商行為ト解スルトキハ狹キニ過ク要スルニ法律行為ト解シテ大過ナカラン[illegible]

師　問法第二百九十二條ノ意義如何[illegible]

生徒　例ヘハ交互計算契約ノ當事者中甲ハ乙ニ[illegible]手形ヲ有償ニテ取得シタル場合ニ若シ手形債務者カ支拂ヲ爲サナルトキハ甲ハ交互計算ニ組入レタル其對價ニ關スル債務ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得ヘキ意ナリ

師　此ノ如キ對價ハ手形ヨリ生シタル債務ト關スルコトヲ得ヘカラン[illegible]

生徒　答ヘ[illegible]

師　本條ノ意味ハ全ク解スルコトヲ得ス即チ手形上ノ債權債務ヲ交互計算中ニ組入レタル場合ノ規定ナリトスレハ其意ヲ解スヘカラス故ニ只今答ヘラレタルカ如キ意義ナリト解シテ可ナルヘシ

師　第二百九十六條ニ就テ問ハンニ當事者ハ交互計算契約ノ解除ヲ爲スヲ得ルコトヲ約スルヲ得ルヤ換言スレハ本條ハ公益規定ナルヤ

生徒　公益規定ナリ

師　民法ノ第六百五十一條ノ規定ハ如何[illegible]

生徒　民法ハ[illegible]

師　然レトモ其條文ノ文言ハ全ク同樣ナルニ非スヤ

生徒答ヘテ其論文ハ文言ハ全ク同樣ニシテ非ス

講師　本條ハ獨逸商法ノ規定ト同樣ニシテ獨逸學者ハ永久ニ交互計算ヲ解除セサルコトヲ約スルカ如キハ不法ナルモ或期間内ニ限リ解除セサル契約ヲ爲スコトヲ得ヘシト委任ニ付テモ亦同シト論セリ要スルニ本條ノ規定ハ絶對的ニ公益規定ニ非スト信ス而シテ本條ハ公益規定ニ

講師　次ニ匿名組合ニ付テ推問セン第二ニ匿名組合ハ如何ナル商行爲ナルヤ

生徒　附屬的商行爲ナリ

講師　其理由如何

生徒　營業者ヨリ觀ルトキハ商人カ其營業ノ爲メニスルモノナレハナリ

講師　營業者トハ如何換言セハ匿名組合ノ當事者タル營業者ハ商人ニ非サルモ營業者ナレハ可ナルカ如シ如何

生徒　第二百九十七條ニハ營業ノ爲メニトナシ其意ハ商業ヲ爲メト去フニ在リ若シ然ラサレハ匿名組合ハ商法商行爲編中ニ規定セラルヘキモノ

非サルヘク且第二百九十九條ノ「匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用ヰ」等ノ文字ハ解スヘカラサルニ至レハナリ

講師　然リ故ニ獨逸商法ニ於テハ商業ノ爲メニ云云ト規定セリ、次ニ匿名組合員又ハ營業者ハ法人ナルモ可ナルヤ

生徒　支障ナシ

講師　然ラハ第三百二條第二號ニ營業者ノ死亡トアリ法人モ死亡スルヤ

生徒　法人ニハ解散アレトモ死亡ナシ唯第二號ハ法人ナルトキハ其適用ナキノミ

講師　然リ而シテ匿名組合ハ諾成契約ナルカ明カナリ且ツ民法上如何ナル種類ノ契約ナルヤ

生徒　無名契約ナリ

講師　本問ハ獨逸ニ於テモ大ニ議論アル所ナリ然民法上組合契約ハ於勿論羅馬法上財産ノ共有(コンムニオン)ノ觀念ヲ必要トスルモ匿名組合ニ在リテハ匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財産ニ歸スルヲ以テ(商法第二九八條參照)

其觀念は敢て敢て非難すべきものにあらざるべし

一罪と數罪との區別に關する推問並に講演

講師　家屋内に侵入して窃盜を爲すもの者あり此場合は一罪なるか二罪なるか

生徒　一罪なり家屋侵入は窃盜の手段なれはなり

講師　手段なるを以て目的たる罪に吸收せらるるとの見解なるか

生徒　然り

講師　殺害を發覚して死屍と共に盜取したる物品を棄てたる場合は如何

生徒　二罪なるか

講師　二罪なりとせは如何なる理由なるか

生徒　一罪なり何となれは其殺害は窃盜の目的を以て殺害したるものなれは

講師　其事に乘じて他人の家屋内に在る物を窃取するの目的を以て其家屋に

[illegible]火ヲ放チタルトキハ此大罪ニ成ル二罪ヲ分カツ能ハズ目的ヲ以テ其犯罪ニ

生徒　殺罪ナリ何トナレハ放火ヲ爲サザルモ物ヲ竊取スルコトヲ得レハナリ

講師　[illegible]放火ナケレハ外出セザルコト明カナル場合例ヘハ支那ノ或合壙ヲ略取[illegible]時ハ爲メニ放火セザルトキハ略取罪ハ毀敗セラルルモ[illegible]

甲生徒　必要ニシテ避クヘカラザル手段ハ目的タル罪ニ毀敗セラルルナリ

乙生徒　屋内竊盜ハ一罪ニ成ルモ其他ハ殺罪ナリイヽ見[illegible]

講師　屋内竊盜ハ何故ニ一罪ニ成ルカ[illegible]

生徒　竊盜ハ普通屋内ニ於テノミ行ハルモノナレハナリ

講師　普通[illegible]ハ如何ナル意味ニ解スルカ通常ノ意味ニ解スルカ十中八九ト云ヒ[illegible]如シ然ラハ竊盜ハ屋外竊盜ヨリモ屋内竊盜ノ數多シト云フノ意ナルカ若シ然リトセハ統計上ノ問題ニシテ今遽ニ斷定シ難キコト能ハサル[illegible]

生徒　屋内竊盜ノ場合ニ於テハ既ニ立法者カ家屋内ニ侵入スルコトヲ豫想シ竊盜ナル重キ實害中ニ包含セシメタルヲ以テ別ニ家屋侵入ヲ罰セサルモノトスヘシ

講師　予ハ以上諸君ノ述ヘタル手段說必要手段說普通行ハルト認ム神說及ヒ[illegible]危險實害說ヲ採用セス就中モ殺罪ノ段ニ論スヘキモノト信ス又通人ハ相通

講師　何ヲカ手段ト謂スカ世上多クノ手段說ヲ採ル人ニ於テハ犯罪ノ手段ハ[illegible]意義ヲ定メサル者アルカ如シ是レ最モ必要ナル事項ニ屬ス然ヲ以テ諸君ハ之ヲ研究セラレンコトヲ希望ス[illegible]

講師　犯罪ノ手段トハ何ソヤニ就キ予ハ見解ヲ述ヘン[illegible]

手段トハ所爲又ハ行爲ノ具體的外形ヲ謂フ抑モ人間身體ノ動ハ若シ眞實ナル事實ヨリ觀レハ生ヨリ死ニ至ルマテ前後一貫シタルモノニシテ其總テニ原因結果ヲ有シ決シテ其間ニ聯絡ヲ缺クコトナシ而シテ其行爲中ノ特段ナル各部分ヲ截斷シテ之ニ一定ノ名稱ヲ附スルニ當リテハ其名稱ヲ附スル方面ノ異ナルニ從ヒテ其名稱ノ異ナルモノアリ例ヘハ宗教ノ觀念ヲ以テ信仰ト云ヒ[illegible]彼ノ認識以上ニ亘リテ吾人ノ是認スル所ノ世間ヲ離セ(神ノ存在ヲ信スルト否トノ如キハ宗教上ノ觀念ト關係ナシ)又道德上ノ觀念ヲ以テ慈善ノ行爲ト云ヘハ人間一生ノ行爲中彼ノ博愛ノ道ニ適セタルモノヲ抽出シテ名付シ法律

ノ觀念ヲ以テ法律的行爲ニ非ズト謂ハザルベカラズ而シテ其法律ノ範圍內ニ屬セザルモノハ即チ放任的オモノヲ除外シ他日名稱ヲ附スベキモノヲ待シテ其法律的行爲中或ハ賣買ト名ケ或ハ贈與ト稱シ所行各々之ヲ支配スベシ法律即チ民法商法ノ觀ル所ヲ以テ自由ニ定メザル行爲ノ區域ヲ構ムル如キ是サリ今刑法ニ於テ人間ノ擧動(所爲行爲)ト謂ヒ何ナルモノヲ謂フカ研究セハ殺人ノ所爲ト謂ヒ竊盜ノ所爲ト稱スモ皆是レ刑法ニ於テ自由ニ定メタル行爲ノ區域ヲ謂フニ過ギザルナリ而シテ其間一種ノ特殊ニ屬スル刑法上ニ於テ或一ノ所爲カ如何ナル區域ヲ有スルカハ刑法自身カ自由ニ定メ得ベキ證據トシテ殺人ノ暴行ヲ加ヘ脅迫ヲ加ヘ財ヲ奪フノ所爲ハ一罪トシテ規定スルニ拘ハラズ之ヲ財產ヲ奪フノ目的ニ使用シタル場合ニハ强取トシ一箇ノ所爲トシテ規定セリ又他ノ例ヲ見ルニ內亂罪ノ如キ其犯罪ノ目的ニ於テハ制壓ヲ蒙ル能ハザルマデニ至ラシメタル場合ニ於テハ兵ヲ擧ケ或ハ暴動ヲ起シ即チ既遂ト認メタル以上ハ其內亂ヲ謀爲アリト謂フベシ又他人ノ財產ヲ奪フ者ノ如キ竊盜罪中八九ハ其贓物ヲ利用スル目的ヲ以テ時的トスル所ニ拘ハラズ

竊取强取盜取ト謂フカ如キ擧動ヲ以テ法律ハ之ニ一段落ヲ付シ之ヲ要スルニ人間一切ノ擧動ハ或分量ニ從ヒ斷決シタル之ニ一定ノ名ヲ附スルハ刑法ニシテ之ヲ所爲ト謂フ

人間ノ擧動ノ或段落ヲ法律ハ一ノ單位トシテ一定ノ名稱ヲ附シタルモノヲ所爲ト謂フ之ヲ刑法上ニ於ケル絕對的ノ外形ト謂フ何人カ何時如何ナル場所ニ於テ實行シタリトスルモ人ノ生命ヲ奪フ者ハ殺人ナル絕對的ノ名稱ヲ有スルカ又他人ノ所有物ヲ所持ヲ移轉セバ竊取强取ナル絕對的ノ名稱ヲ有ス此等ハ人ト場所及ヒ時等ニ關係ナキ絕對ノ名稱ニシテ特定ノ人カ一定ノ場所及ヒ時ニ於テ一定ノ人ヲ殺シタル場合ニ於テハ特ニ其人ハ妻ミ夫用ヒタル外形即チ所謂具體的ノ外形存ス是レ即チ手段ナリ故ニ伊藤博文ノ東京市役所ニ於テ星亨ニ對シテ爲シタル外形即チ刺シタルコトハ手段ナリ今假ニ之ヲ其都人日常ノ事ニ例ヲ取レバ東京ヲ發シテ京都ニ達スレバ何人カ何時之ヲ實行スルモ京都行トシテ云フ一ノ旅行ナリ然レトモ或人ハ船ヲ用ヒ或人ハ汽車ニ乘リ或ハ步行スルコトアルモ既ニ京都行ノ絕對的外形ヲ言ハバ京都行旅行ノ所爲ナレ

トモ各自ノ採用シタル具體的ノ外形即チ汽車ト歩行ハ手段ナリ

人動モスレハ手段トハ或一ノ行爲ヲ完ウスル行爲ノ目的ヲ以テ本人ノ採用シタル別箇ノ行爲ノ如ク解スル者尠カラス此ノ如キハ所爲行爲手段ナル根本ノ觀念ヲ誤解スルモノナリ他人ヲ殺スハ獨立ノ一所爲ナリ又財物ヲ竊取スルハ他ノ所爲ナリ法律ハ之ヲ併合セサル限ハ例ヘハ殺人カ殺人ノ爲メニ竊取シタルカ如キ其目的ノ上ニ聯絡アリタリトスルモ決シテ合シテ一所爲ト爲ルコト能ハス所爲カ一ナルヤ二ナルヤハ法律ノ明文若クハ精神ノ外ニ於テ存在スルモノニ非ス人ヲ殺ス爲メニ刀ヲ竊取シテ以テ殺シタリトスルモ殺人ト竊盜トハ別罪ナリ何トナレハ縱令目的ヲ甲乙ノ所爲ニ聯絡セシムルモ二箇ノ所爲ハ二箇ニシテ雙方絶對的ノモノナリ其一ノ所爲ノ具體的外形即チ手段ト謂フコト能ハス法律ノ明文ニ於テ合併スル場合ハ別ニ問題ヲ生セズ彼ノ第三百六十八條ノ如キハ踰越盜ナル一所爲アルノミニシテ踰越ノ行爲ト竊盜ノ行爲トカ獨立シテ存在スルモノニ非ス又强取ナル一所爲ハ暴行脅迫ト奪取トヲ法律カ合併シテ强取ナル一所爲ト爲セルナリ强姦モ亦然リ竊盜ノ目的ヲ以テ火ヲ放チ竊取ノ目的ヲ以テ墳墓ヲ發掘スルカ如キハ右ノ論理ヨリセハ唯犯人ノ目的ニ於テ二箇ノ所爲關係セルノミニシテ所爲自體ノ具體的外形ト謂フコト能ハス隨テ手段ナリ吸收セラルルト謂フコト能ハス唯竊盜罪(第三六八條以外)ニ付テハ右ノ論理ヨリセハ別罪ノ如キモ特ニ所持ノ侵害ノ觀念ヨリ特別ノ問題起ルナリ

抑モ吾人ノ邸宅若クハ家屋ハ物ノ所持ヲ彰表スル區域ナリ邸宅ノ境界外ニ在ル物ハ其家ニ屬セス其内ニ在ル物ハ其家ニ屬スト謂フカ如キハ吾人モ事實上此ノ如ク所持ノ區域ヲ看ルモノニシテ又法律モ同一ナリト信ス自己ノ邸内ニ備附ケアレハ自己ノ所持ニ屬スルモノナリ若シ竊盜罪カ所持ノ侵害ニ其源ヲ發シ所持ヲ移シタル時ニ既遂ナリトセハ偶ヽ財物ヲ奪フ爲メニスル侵入ハ竊取ナル行爲自體ナリトノ論ヲ主張スルコトヲ得然レトモ是レ反對ノ說アリテ二箇ノ別罪ナリト主張スル者尠カラス

[illegible]

刑事訴訟法第九十條ニ就テノ講演

法律學士　鶴見守義

刑事訴訟法第九十條ニ被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書證據物件證人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ慈源ハ判事ノ判斷ニ任ストアリ本條ノ解釋ヲ爲スニ先チ其法ニ證據ノ意義ヲ說明セン證據ハ常ニ民事ニ用ヒ[illegible]

ナリ然レトモ刑事訴訟法上所謂證據ナル語ハ[illegible]頗ル廣義ニ[illegible]有形ナル
モノノ[illegible]例ヘハ證ニ甲カ[illegible]被害[illegible]タリ[illegible]證言[illegible]判事カ之[illegible]
[illegible]ト[illegible]猶[illegible]證據[illegible]謂[illegible]如シ故ニ[illegible]何[illegible]證據[illegible]判事
[illegible]之ヲ心證ノ基本[illegible]タル證據[illegible]非ス[illegible]事實[illegible]證據ハ判事[illegible]
事實認定[illegible]基本タ[illegible]タル證據[illegible]非[illegible]事實[illegible]證[illegible]
爲[illegible]常事者カ用ヲ[illegible]證據方法モ亦之ヲ證據ト謂[illegible]ヘ[illegible]故[illegible]
證人[illegible]證書[illegible]或鑑定人カ爲シタル鑑定ハ常ニ判事ノ事實認定ノ基
本[illegible]非ス故[illegible]此意義ヨリ言ヘハ證據[illegible]智[illegible]ヲ以テ眞實
ヲ發見[illegible]至ルヘキ[illegible]手段方法[illegible]意
ヘキハ證據ノ意義ニ付テハ各國ニ於ケル立法例及ヒ學說ノ未タ一定セサルコ
ト是ナリ

法律學士　鶴見守義

次ニ證據ニハ直接證據ト間接證據ノ二種アリ而シテ直接證據ヲ更ニ二種ニ分
ツ一ハ人ノ内部[illegible]直接證據即チ心理[illegible]經過スル事柄ヲ知ラシムルモノニシテ
智識ノ根源ナリ此點ニ付テ「デカルト」氏曰ク「予ハ考ヘテ居ル故ニ予ハ存在ス」ト

是レ其直接證據ノ顯著ナルモノ[illegible]氏ハ己カ人トシテ世ニ存在スル
[illegible]ナリヤ否ヤニ付テ疑[illegible]生[illegible]熟慮[illegible]氏[illegible]生存[illegible]居[illegible]ノ斷案
ヲ下シタリ而[illegible]其證據如何ト云フニ牙ハ予ハ思考スレハナリトノ事ニシテ
是レ即[illegible]心裡[illegible]直接證據[illegible]シテ最[illegible]確實ナ[illegible]ナリ[illegible]二[illegible]五感ヲ[illegible]其
外部ノ事項[illegible]知得[illegible]直接證據[illegible]例ヘハ予カ今暖キ事ヲ知[illegible]皮膚[illegible]力[illegible]
[illegible]水ナリ然[illegible]ト[illegible]是[illegible]純理[illegible]間接證據ナ[illegible]何ト[illegible]
耳目等五感[illegible]ニ依リ[illegible]知得[illegible]其作用間接[illegible]唯便宜上
此種ノ證據[illegible]直接證據[illegible]屬[illegible]次[illegible]間接證據ト[illegible]知リ得[illegible]ル事
項ヲ基本[illegible]シ[illegible]未知ノ事項[illegible]知[illegible]方法[illegible]此方法[illegible]亦二種アリ[illegible]
演繹法[illegible]シ[illegible]歸納法[illegible]先[illegible]者ノ[illegible]先[illegible]確實[illegible]原則[illegible]
キ其原則[illegible]其結果ヲ探知[illegible]方法[illegible]故ニ例ヘハ幾何學ニ於テ或點ヨリ
或點ニ至ル最モ近キ距離ハ其點[illegible]直線[illegible]原則[illegible]其原則[illegible]
リ種々ノ結果ヲ發見[illegible]知[illegible]後者[illegible]既[illegible]知得[illegible]事項[illegible]人[illegible]事
項ヲ[illegible]選[illegible]正反對[illegible]結果[illegible]原則[illegible]發見[illegible]

[illegible]ノ制限ハ「ユスタチアン」法典ニ於テ[illegible]ルコトヲ明カニシタルモノナリ左ニ若干ノ例ヲ示ス例ヘハ[illegible]ハ[illegible]ニ於テ[illegible]ハ[illegible]ニ於テ[illegible]ハ[illegible]ニ於テ

於テ裁判官ノ證據方法ヲ認メタリトスルモノ[illegible]

一　自白

二　人證

三　被告人ノ宣誓ノ是レ被告人ニ於テ其事件ニ關スル事實ヲ爲サナリシコトヲ宣誓シテ裁判官ニ信用セシタルモノナリ[illegible]

四　「コンビクルール」「コンビクルーレ」「コンビクルーレ」「コンビクルーレ

勝利ヲ得ントスルモ自來モ決セサルヲ以テ其國土平和ヲ欲セスンハ宜シク其國土ニ平和ヲ欲セスンハ宜シク其
要求スルヲ告ケ後事ハ新地ヲ以テ加分賠償ニ相當ス制限ヲ設キタル法律場合
今ニ於テハ右ノ制限ヲ全ク除去シ證據ニ付非難何等ノ制限ナキヤト思ハルヽ
即チ自由主義ヲ採用シタルヤモ亦ナリト謂ヒ其國土ハ他國ヘ必要セサル限リ
第二刑事訴訟法第九十條ノ意義ハ證據ノ眞否ヲ判斷スル付又モ法律其他等ノ
制限ヲ置ケサルコトヲ規定シタル為ニ於テ裁判官ハ自由ニ證據判斷ニ番
沙スルヤモヲ得サルモノニシテ唯法律ニ違反シ事實ヲ確定シ審場合無ヤモ
審査スルノ職權ヲ有スルニ止マルモノニシテ一ハ被告人ノ
然レトモ右ハ原則ニシテ此原則ハ例外アリ非ス例ハ裁判始末書ニ法定ノ
判事出廷シタルコト、被告人ハ身體ノ拘束ヲ受ケスシテ出頭シタルコト、檢事ハ
辯論ヲ爲シタルコト等ヲ記載サルトキハ雖令事實ニ於テハ此等ノ事項ニ反ス
ルコトヲ證據アルトキハ雖モ之ヲ證明スルコトヲ許ササルモノナリ
次ニ何故ニ法律カ右原則ノ如キ規定ヲ設ケルヤ必要アリシヤヲ述ヘンニ佛國
大革命以前ニ於テハ人體ニ關シテハ此種ノ規定ナリ即チ一ハ一人ノ證言ハ之ヲ

採用スルコトヲ得ス二ハ二人ノ證言ハ必ス之ヲ採用セサルヘカラストノ規定
是ナリ尤モ一人ノ證言ハ之ヲ採用スヘカラストノ規定ハ今尚ホ英米ニ於テ採
用セラレ國事犯ニ之ヲ適用セリト雖モ二人ノ證言ハ必ス之ヲ採用セサルヘカ
ラストノ規定ハ甚タ危險ナルヲ以テ今日此規定ヲ採用シタル立法例ナシ佛帝
那破侖當テ法律ヲ制定スルニ方リテ曰ク「此制度ニ依レハ一人ノ正確ナル證言
ニ依リテ一人ノ惡徒ヲ罰スルコトヲ得サルモ二人ノ惡徒ノ證言ニ依リテ一人
ノ良民ヲ罰スルコトヲ得ヘシ」ト謂ヒ至言ナリ仍テ千七百八十九年ノ法律ヲ以
テ遂ニ此制度ヲ打破シ自由主義ノ原則ヲ立テタリ是レ即チ佛國治罪法第三百
四十二條ノ明示スル所ニシテ我刑事訴訟法第九十條モ亦之ニ倣ヒテ規定セラ
レタルモノナリトス

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ジュスチニアン帝ハ第一、第二ノ人格減少ニ對スル結果ヲ保全セシモ第三ノ人格減少ハ家族關係人變更ニ原因シ家族又廢セ血族關係以上基礎ヲ爲ス人ノ消滅シタル同人ニ向テハ補償ヲ與ヘルヤウニスルコトヲ出來ナイ

第二編　物

大抵以上ノ中間的人格者ハ其權利人ノ向テ義務ヲ負ハ人格者ハ其權利人ノ向テ義務ヲ負ハ人格者ハ其權利人ノ向テ義務ヲ負ハ

利益ノ一部又ハ全部ヲ吾人ニ得セシメタル他人ニ對シテ債權ヲ請求スルヲ許ス其單ニ無爲ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ

債權或ハ人權ニ於テ其目的トスル所ハ亦一物ヲ取得シ吾人ハ此物ヨリ生スル利益ヲ收メントスルニ在リ然レトモ吾人ハ直接ニ物トノ關係ヲ有セサルカ故ニ吾人ハ己ヲ作爲ヲ以テ之ヲ享有スルコト能ハスシテ吾人ハ必ス一定シタル他人ニ對シ交渉ヲ遂ケ此物ヲ交付セシメサルヘカラス是ヲ以テ之ヲ觀レハ債權ハ物權ト異ナリ常ニ二人ノ存在ヲ想察セシムルモノニシテ一方ヲ權利ノ自働主格タル債權者トシ他方ヲ權利ノ受働主格タル債務者ト爲ス而シテ債務者ハ債權者ニ對シ其權利ノ目的トシテ規定セラレタル物即チ財產ヲ得セシメサルヘカラス若シ債務者ニシテ其履行ヲ怠ルトキハ債權者ハ公權ニ依賴シテ之ヲ强制スルノ手段ヲ有ス

物權ノ性質タルヤ其主格タル人ヲ變シ甲ヨリ乙ニ移ルヲ得ヘキモ年月ヲ經過スルモ自ラ消滅スヘキモノニ非ス寧ロ永久無邊ニ渉リ存在スヘキモノニシテ就中物權ノ典型タル所有權ニ於テ此性質ヲ表徵ス之ニ反シ債權ノ性質タルヤ

一定時間繼續スヘキモノニシテ決シテ無限ノ期日ニ渉リ存在スルヲ得ス一旦義務ノ履行セラルルトキハ即チ消失スルヲ常トス故ニ債權ハ一回又ハ數回ニ分タス其享有ト共ニ滅亡スルノ運命ヲ有ス

物權及ヒ債權ヲ以テ成レル集合體ハ此全部ヲ所有スル人ノ資產ヲ構成スルモノナリ此物權及ヒ債權ノ特別ナル徵候トシテ之ヲ上編講述セル所謂親族權ナルモノヨリ區別スル所ノモノハ此兩權ハ金錢ヲ以テ評價シ得ラルヘキニ在リ即チ資產ナルモノハ財產ヨリ成リ而シテ此財產各自ハ金錢上ノ價直ヲ有スルカ故ニ其總額タル資產モ亦金錢上ノ價直ヲ以テ評量セラルヘシ而シテ資產ノ價直ヲ評量センニハ資產ノ所屬主タル人カ有スル負債及ヒ財產ヲ侵害スル所ノ負擔ヲ知ラサルヘカラス此負債及ヒ負擔ハ等シク皆金錢的ノ價直ヲ有スルヲ以テ其消極的總額ヲ減少セルモノヲ積極的資產ト爲ス換言スレハ一人ノ資產ハ積極的及ヒ消極的ノ金錢上ノ權利ヨリ成ルモノナリ

羅馬法ニ於テハ物權ヲ分チテ二種ト爲ス第一ハ最モ古昔ヨリ存シ市民法ニ依リ規定ナレタルモノニシテ所有權及ヒ地役權是ナリ第二ハ「プレトール」法ニ由リ

承認ナレタルモノニシテイハヤ(in bonis)所有權永借權地上權抵當權是ナリ第一ノモノハ物權中最モ重要ナルモノニシテ之ヲ第二ノモノニ比セバ市民法ノ制ヲ模倣セシニ過キス

第二章　市民法ノ物權

第一節　所有權(Dominium ex jure quiritium)

所有權ハ物權中ノ最モ秀絕ナルモノニシテ其第一位ニ立チ之ヲ有スル者ハ其目的タル一物カ負スコトヲ得ヘキ最大額ノ權利ヲ享有スルモノナリ故ニ所有權ヲ有スル人ハ此權ニ依リテ以テ一ノ有體物カ生シ得ヘキ一切ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ルモノトス而シテ所有權ハ使用權(Jus utendi)收實權(Jus fruendi)處分權(Jus abutendi)ナル三箇ノ元素ヨリ形成サレ此元素ハ各自一ノ權利ヲ成スモノナリ

使用權(Jus utendi ou usus)トハ物ヲ捷フヘキ方法ニ從ヒテ之ヲ使用スルノ權ニシテ例ヘハ家屋ナレハ之ニ住居シ馬匹ナレハ之ニ騎乘スルカ如シ收實權(Jus fruendi ou fructus)トハ物ノ生產スル果實及收穫ノ權ニシテ其正當生產物タル樹木穀物等モ用ワガイミナラズ又不當ノ字義ニ據リ生產物タルヘキ借家賃及ビ公債ノ利息等ヲ含蓄ス處分權(Jus abutendi, abusus)トハ其方法ノ如何ヲ問ハス隨意ニ物ヲ處分スルノ權ヲ謂フ蓋シ所有權ノ絕對的ナルトハ此權ニ起因スルモノニシテ或ハ物ノ形體ヲ變シ或ハ物ヲ毀損シ或ハ物ヲ讓與スル等皆此權ノ作用ナリ然ラハ處分權ハ上ノ使用收實兩權ニ比シ其重大ナルヿ同日ノ論ニ非ス吾人ハ物上ニ有スル權利ヲ讓與シ或ハ破滅スルヿトヲ意味スルモノナリ故ニ使用權收實權ニ渉ル行爲ハ同一ノ所有者カ無窮ニ反復シ得ヘキモ處分權ニ於テハ之ニ反シ物ノ價ヲ減スルヿヲ行爲タルヿヲ以テ再三再四之ヲ實行スルコト能ハス時トシテハ讓與ノ如キ單ニ一回ノ應用ノミ同一ノ所有者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

使用收實處分ノ三權集合シ一束ヲ成シタルモノヲ完全無缺ノ所有權ト爲ス其特別ナル性質トシテ除外絕對永久ノ三事アリ羅馬法ハ夙ニ此理ヲ認識シテ之ヲ論究セシカ其採用セシ學理ハ近世法律ニ於テモ勢ヒ之ヲ踏襲セリ所有權ハ除外的ノ性質ハ物ノ所有者ハ獨リ所有權ノ目的タル物件ニ對シテ利益ヲ收ム

個人の之を分與スルコトを能ハザル所以は是は人物の所有權は俱に自然の權利人に屬シ得ベキ物の所有權は必ず其全體を挙テ一個人に屬セザルベカラザルに非スシテ其時に於ては之を組成スル元素に數個人に屬シ各人一二元素を有スルコトアリ或は之を悉く所有權を以て數人に屬シ各人其一部を有スルコトアリ而シテ此等の場合に多くは其現に所有權を有スル者或は前に之を有セシ者の意思に依リ創立セラレタル狀態なりトスルコトハ絶對的の性質トシテ物ノ所有者ハ其權に隨ヒテ或は物を破壞し或は之を裏返シ更に變成スルコトナキコト既に上に言ヘル如し然レトモ此絶對の權力ハ時トシテ制限を受クルコトアリ例ヘハ所有權を數元素に從ヒ分解サレタルトキ或は數人の共有に屬スルトキハ其中一人の意を以テ隨意に物を破壞スルコト能ハス又土地所有者ハ隣地ノ所有權享有者に對シ侵害を加フルヲ恐スル行爲を爲サントセハ或規則に從ハサルヲカラス（其表の距離或は面積の上位ノ地より流下スル泉流水を受ケサルヘカラス或は公益ノ爲メ其土地を收用セラルルコトアリ此等の制限ハ或は所有權を分解し其一部を有スル各人限ル

ハ其共有者ノ關係より生シ或ハ一般公共利益を目的トシ直接に生スルモノナリ

永久的ノ性質トシテ所有權ハ所有者ノ意思及其物を破壞セサルカ所ノ事故ハ他人に對サレハ消滅セザルコトナシ故に所有權ハ他ノ權利及其他を消失スヘキ運命を有スル債權ノ如ク一時的ノモノに非スシテ所有權ノ運命ハ其目的タル物ノ運命に等シク物ノ存在スル間ハ又繼續スルモノナリ

蓋シ羅馬に於テハ所有權ノ起源ハ征略に在リ太古羅馬人ノ未タ國を成サナリシ間ハ土地を以テ國ノ領有トシ其分配ノ所屬を爲シ唯動產ノミを以テ各自ノ所有に委シタルカ如キモノなれとも後ち立法者ハ及ヒ之を形成セル三種族ノ間に土地を分配し各種族に更に其配當分を割テ之を分配シ[illegible]ハ共同ノ所有トシタルを此土地を呼ヒテ羅馬土地（Ager romanus）トし後ち其後「ユマ」王に及ヒ各殺戮者等に土地を配分セリ然レトモ此等人ノ土地所有權ハ素ト國ノ全部ナル權力に依リ爲シタルを以テ國民會議に於テ廢收スルノ權アルモノト思考サレタリ此土地ハ（Heres）ナル物に依セネレハ[illegible]ノトシ後世ノ式

タ事件以ヲ各領土島嶼土地土地境界ハ國家間ノ條約ヲ以テ定ムル此土地境界ハ
海(Grenzlinie)ヲ各ノ領土島嶼ノ境界ヲ定ムル以上國家間ノ條約ヲ以テ定ムル場合ノ
之ヲ觀スルニ今日國際法ニ於テ所有境界線ハ以テ陸地ニ於テハ山嶺ヲ標ト
爭論ヲ解決シ海ニ於テハ其土地ノ海岸ヲ標ト地圖(Landkarte)ヲ以テ其ノ
取調ヲ無駄ノ人間ニ分ケ詳細ナル報告ヲ其ニ都國政府ニ報告ス(Landesregierung)
ヒタル(Bonitierung)名ヲ其他無駄ノ人間ニ立法家ニ於テ土地ヲ評價ヲ以テ
所有ト稱シ保存地ヲ國此報酬ヲ新次發表ヲ種類ヲ以テ所謂表ヲ以テ貧困平民
間ニ於ケル特別ノ問題ト稱シ夕家間ニ於テ太古無主人ニ來ル間ニ於テ
ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

第二節　物ノ區別

物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(一)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(二)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(三)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(四)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(五)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(六)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(七)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(八)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(九)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

(十)公共ノ物ハ人ノ所有ト稱シ夕家間ニ於テ

個財産ノ如シ(2)宗教物トハ下級神(Dii inferi)即チ亡魂ノ爲メニ供セル所ノ物ヲ埋葬地ヲ指スモノナリ(3)神聖物トハ一定セル神ニ屬スルニ非スト雖モ貴人ノ侵略ヲ防ク爲メ宗教上ノ儀式ヲ執行シタル後神聖物ト爲シタルモノニシテ例ヘハ市壁市門ノ如シ之ヲ汚ス者ハ厳罰ヲ處セラレタリ

(b)　共同ノ物　共同ノ物トハ公衆ノ使用ニ任セ一個人ノ特有ト爲スコト能ハサルモノナリ例ヘハ空気流水海濱ノ如シ

(c)　公共ノ物　公共ノ物トハ國家ニ屬スル所ノモノニシテ所謂公有領地ヲ成シ公共ノ使用ニ充テラレタルモノナリ例ヘハ道路港湾河川等ノ如シ又市ノ有スル公共財産モ亦之ニ屬スルヲ得ヘシ例ヘハ劇場ノ如シ然レトモ國又ハ市ノ有スル財産ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノ其他私人ノ財産ノ如キ國及ヒ市ノ私用ニ充テラレタルモノナリ此等ノ物ハ公共ノ物ト爲スヲ得ス

上說セル所ノ物ハ商事外ノ物ニシテ個人ノ資産ヲ組成スルモノト雖モ其故ニ何人ト雖モ此等ノ物ヲ取リテ特ニ所有權ノ目的ト爲スコト能ハサルカ勿論或ハ他ノ物權債權等ヲ以テ其上ニ負ハシムルコト能ハス

(11)　資産ニ入ルヘキ物　資産ニ入ルヘキ物トハ上ニ列擧シ來レル所ノ物ヲ除クノ外一切ノ物ヲ謂フモノニシテ吾人カ研究スル所ハ唯リ此第二ノ物ニ在ルノミ而シテ以下ニ立ツル物ノ分類ハ皆資産内ノ物ニ於ケル區別ナリトス

第二　Res mancipi 及ヒ Res nec mancipi

此分類ハ古代ノ羅馬法ニ於テハ最モ重要ナル物ノニシテ其後久シク存立シ物ノ理論中最モ有力ノモノトシテ信用サレタルモ漸次學者ノ委棄スル所ト爲リ「ジュスチニアン」帝ノ時ニ至リ全ク消失シタリ羅馬ノ法學者ハ Res mancipi 及ヒ Res nec mancipi ニ就キテ一般ノ定義ヲ與フルコトナク單ニ Res mancipi ニ入ルヘキ物ノ種類ヲ列擧シ以外ノ物ヲ以テ Res nec mancipi ト爲シタリ「ユルピアン」及ヒ「ガイユス」ニ從ヘハ伊太利ノ土地ニ存スル田野及ヒ都府ノ不動産其田野地役奴隷牛馬驢騾ノ如キ物品ヲ負ヒ又ハ車ヲ曳クヲ得キ四足獸ハ皆 Res mancipi ニ屬シ其他ノ物ハ州ノ土地其地役權伊太利土地上ニ於ケル都府ノ地役州郡又土地上ニ於ケル一切ノ地役貸管貸物商品及ヒ土器セル以外ノ家畜例ヘハ雞鴨家イ如キ語ヲ皆 Res nec mancipi ニ屬ス

Res mancipi ハ所有權ノ移轉ヲシムル方法中ニ於テ最モ嚴格ナル儀式ヨリ成ル Mancipatio ヲ用ヒテ讓與セラルヽ物件ニ稱スル名稱ニシテ Res mancipi ハ此 Mancipatio ノ儀式ヲ適用スベキ物件ナリトシテ許容セラレタル物件ナリトス故ニ單ニ以テハ Res mancipi ノ所有權ヲ移轉セシムルヿ能ハズ其效力ヲ生スルニハ其效力ヲ能ハザルモノニ對シテハ Mancipatio ノ式ヲ應用シタルヿヲ要ス Res mancipi ノ分類ハ一見スレバ頗ル奇異ノ感アリ一定ノ方式ニ一定ノ理論アリ其基礎ヲ求ムルニ非ズ然ラバ何ゾ斯ル理由ニ據リ此ノ如キ區別ヲ立テタルカヲ尋ネルニ古代ノ羅馬社會ニ於ケル經濟的ノ觀念ヨリ其起源ヲ發出セシモノナルヘシ何トナレハ本來羅馬人ハ定住土著ノ農業人種タリシヲ以テ土地及ヒ其耕作ニ必要ナル物件ノミヲ以テ國民資産ヲ構成シ子孫ニ傳與シテ耕作ヲ繼續セシムルヿ最モ重ク之ヲ以テ

[illegible]ノ所以ハ其物ヲ生産スルヿ能ハサル利得又ハ其産額ノ減少スル所有權ヲ存セサル[illegible]ナリ之ヲ原則トスル例ヘハ牧畜權地役權等ヲ試ミに甲物及ヒ乙物ハ牧畜權乙ハ地役權ト謂ハサルヘカラス此理由ヨリシテ所有權ヲ於テ[illegible]所有權ノ目的タル有體物ハ[illegible]セサレ[illegible]所有權其モノヲ以テ有體物ハ[illegible]ルヿ由ル

此區別ヨリ生スル利益ハ有體物ハ占領ノ目的ト爲リ無體物ハ其目的ト爲ルヿ能ハス何トナレハ占領ハ於テハ有形的ニ物ヲ握有スルヿ必要トスレハナリ

第四　動産及ヒ不動産

有體物ヲ區別シテ動産及ヒ不動産トスル動産トハ或ハ吾人ノ之ヲ移動シ得ヘキモノ例ヘハ家具机等ノ如シ或ハ自ラ移動シ得ヘキモノ例ヘハ家畜奴隷ノ如シ不動産トハ自然的又ハ人工的ニ定著スヘキ性質ヲ有スルモノヲ謂フ例ヘハ家屋土地ノ如シ

有體物ハ又其使用ニ從ヒテ消滅スヘキト或ハ然ラスシテ永久ニ用ヰ得ヘキトニ從ヒ消耗物不消耗物ノ二トスル或ハ有體物ハ當事者ハ同一物ヲ目的トスルト同種類ノ物ヲ目的トスルトニ從ヒ代換物不代換物ノ二トスル

第三節　所有權ノ分類

[illegible]

當初ニ於テ羅馬法ハ唯一ノ所有權ヲ之ヲ名ケテ Mancipium ト呼ヒ少リ其權原ノ從略ニ在リタルニ其字ヲ以テ知ルヘシ即チ Mancipium ナル一字ハ Manus 及ヒ Capere ノ二字ナリ Manus トハ手ノ義ニシテ Capere ハ捕フルノ義ナリ其所有權ハ Dominium ex jure quiritium 即チ羅馬法所有權ト呼ハレタリ然レトモ其後更ニ二種ノ所有權現出シ[illegible]ハ「プレトール」所有權ト爲シ一ハ州縣所有權ト爲ス市民法ノ所有權ハ獨リ羅馬人ノミ之ヲ伊太利土地及ヒ其他ノ物 Res mancipi 及ヒ Res nec mancipi ノ市民法ニ從ヒ讓與セラレタルトキノミ其上ニ有スルヲ得ヘシ「プレトール」所有權ハ單純ナル引渡ニ因リ Res mancipi ヲ得タルトキニ存スルモノニシテ羅馬法ノ原則ニ從ヘハ此場合ニハ所有權ヲ缺スルト能ハサルヲ以テ市民法ノ所有權ハ存スル者ハ對シ物ヲ請求スル權アルモ「プレトール」ハ取得者ヲ保護センカ爲メ引渡ノ事實ヲ確認シ物ヲ以テ其實産中(In bonis)ニ屬スルモノトシ若シ市民法ノ所有者ハ之ヲ請求セントスル[illegible]

對スルモ詐偽ノ部分ハ羅馬人民ニ屬シテ私地(Agri publicus)タリシ然レトモ貴族及ヒ豪富等ハ漸次著大ナル此公地ノ大部ヲ占領シ之ヲ有スルニ占有(Possessio)ノ名義ヲ以テ伊太利土地法ノ所有權ヲ得ル伊太利土地ニ應用スルモノ羅馬市民法ノ所有權ヲ得ル伊太利ノ土地ニ應用スルモノ及ヒ其他諸州當時ノ羅馬場(Agri [illegible])及ヒ公地(Agri publicus)ト爲シ紀元二百年ニ之ヲ區分シテ私地(Agri privatus)及ヒ公地(Agri publicus)ト爲シ紀元前二百年ニ私人ノ賣買ヲ成シ個人ノ所有地ニ屬セシメタル當時ノ制ハ乙羅馬人民及共ノ所有ニ屬シ喫ヲ祭祀及ヒ公共ノ使用ニ充テタルモノニシテ各人ノ使用ニ任セ共同牧場(Pascua)及ヒ荒漠地ニ於テハ一定ノ年限ヲ以テ一箇人ノ使用ニ許シタルモノニシテ羅馬人民ノ共有ニ屬スル所有權ヲ指示セル語ハ古代ニ於テハ此方式ハ單ニ羅馬ニ限ラズシテ羅馬人ノ征服ヲ遂シタルトキ伊太利全部ニ應用セラレタルモノ蓋シ當時ノ習慣トシテ敵ノ土地ヲ收メタル羅馬人ノ有ニ爲ス其一部ハ之ヲ羅馬人ニ移シ殘部ハ之ヲ

(2)州縣ノ土地ニ於テハ國家ハ何時タリトモ其所有者タル權利ハ甚キ更ニ賠償ヲ與ヘスシテ土地占有者ヨリ剝奪シ之ヲ他ニ許與スルコトヲ得伊太利土地ニ於テモ往昔ハ同一ナリシカ其最上權私地(Agri privati optimo jure)ト爲シタルヨリ以後國家ノ之ヲ篡奪スルコトハ廢止ナレタリ

(3)州縣ノ土地ハ伊太利土地ノ如キRes mancipiニ非ナルヲ以テ隨テ市民法ノ所有權ノ目的タルコト能ハス左レハ國家ハ其所有權ヲ保守スルモノト思考サレタリ然レトモ占有者ハ之ヲ使用シ其果實ヲ收メテ己ノ所有トシ又他人ニ讓與スルコトヲ得是ヲ以テ若シ第三者ニシテ占有者カ其權利ヲ實行スルニ當リ之ニ妨害ヲ加ヘントスルモノアルトキ之ヲ保護スヘキ訴權ナカルヘカラス是レ實ニ「プレトール」法律ノ創立セシ所ナリ之ヲ略說スルニ州縣ノ土地占有ハ一般ノ權利ヲ生シ恰モ所有權ニ於ケルカ如キ事實上一切ノ利益ヲ占有ニ與ヘ遂ニPropriétaireナル特別ナル名ヲ以テ之ヲ指セシカ此字ハ又伊太利土地ト州縣ノ土地トノ別ナク一切ノ土地ニ適用セラルルニ終リタリ

伊太利及ヒ州縣ノ土地ニ於ケル土說セル差異ハ羅馬ノ滅亡ニ至リ漸次消滅シ歸セントスル傾向アリ國庫ノ缺乏ヨリ伊太利土地ニ亦租稅ヲ課セラレ伊太利土地所有權(Dominium)及ヒ州縣土地所有權(Proprietas)ヨリ生スル實際ノ結果ハ同一トナリ遂ニ古來理論上保存セラレタル兩種ノ土地區別ハ「ジュスチニアン」帝ニ至リ全然廢止サレ爾後一切ノ不動產ハ其存在スル土地ノ何處ニ在ルヲ別ツ事等シタ之ヲ以テ均一ナル所有權ノ形式ニ附隨セシメタリ

第四節　占有(Possessio)

近世ノ法學ニ用フル占有ナルモノハ有形的行爲ニ因リ外部ニ見ルヘキ形跡ヲ現ハス所ノ徵候ヲ示シタル權利ノ適用ニシテ此權利カ含有スル能力ヲ使用スル事實ヲ謂フ是ヲ以テ占有ハ一分ノ總テノ權利ニ於テ應用セラルルヲ得ヘシ然レトモ羅馬法ニ於テ純粹ナル占有ノ理ハ此ノ如キ一般ニ適用セラルヘキ廣汎ナルモノニ非ス唯リ所有權ニシテ之ヲ見ルヘキ部分ニ適用シ之ヲ事實上ノ行爲占有ハ所有權ノ元素ヲ構成スル使用收實處分三權ヲ實施シタル事實上ノ行爲ニ過キス即チ所有權外部ノ發表ヨリシテ之ヲ認メ所有權自體ニ關係シ法ハ之ヲ

所有權及ヒ占有ハ單ニ權利及ヒ事實ニシテ羅馬獨逸古南部論理ヲ爲スヿ能ハス亦此區別ハ存在スルモノナリ尋常ノ場合ニ於テハ多クハ所有權ト占有ト同一人ノ手中ニ在リテ所有者ハ同時ニ占有者タリ然ルトキハ理論上又兩者ヲ區別スルノ必要ナシト雖モ又往往ニシテ一物ノ所有權及ヒ占有ハ各自別人ニ屬スル實トアリ例ヘハ所有主ニシテ其怠惰ニ因リ或ハ盜賊ノ爲メ又ハ暴力ニ因テ物ノ占有ヲ失ヒタルトキハ所有權ノ制裁タリ請求復取詐權(Rei vindicatio)ニ依リ之ヲ復取スルコトヲ得而シテ占有ニ於テモ亦特別ナル保護方法ナカルヘカラス是レ羅馬法ノ能ク了解セシ所ナリ

所有主及ヒ占有者ノ各別ナル場合ニ在テハ所有主ハ占有者ニ對シ物件ノ返戻ヲ請求シタルトキハ占有者ハ抗禦スルヿ能ハサルヤ明カナリ然ラサレハ所有權ハ復タ其價値ヲ存セス然レトモ市民法ニ從ヘハ占有ハ一定ノ性質ヲ有シ又一定ノ年月間繼續シタルトキハ所有主ノ請求ヲ排斥スルヲ許セシ故ニ特別ナル事情ニ起因セシモノナリ

若シ第三者ニシテ所有權ヲ基礎トセサシテ占有者ノ權能ヲ侵害セントスル事アル時ハ占有者ハ單ニ其物件ノ占有ヲ確證セタルノミトスルヿ能ハサル判決ヲ以テ占有者ヲ保護スルモノトス此方法ハ實際ニ於テ最モ簡便ナルモノニシテ又同時ニ所有者ヲ保護スルモノナリ例ヘハ土地所有者ニシテ第三者ノ爲メニ其權利ヲ阻害セラルルトキハ常ニ其損害ヲ賠償セシムルヿ所有權ヲ以テ訴訟ノ基礎トセサルヘカラサルトキハ所有權ハ正當ナルヿヲ證明セサルヘカラス而シテ之ヲ爲スヿハ獨リ現有者ノ法則ニ從ヒ土地ヲ獲得セシヿヲ以テ足レリトセス更ニ讓與者カ同一ノ正當ナル權利ヲ有セシ證據ヲ提出セサルヘカラス若シ此ノ如クシテ順次ニ土地ヲ所有シタル者ノ確實ナル所有權ノ證據ヲ歴舉セントセハ必ス一定ノ者ニ至リ之ヲ證明スルコト能ハサルヿ論ヲマタスシテ必然ナリ故ニ若シ此ノ如ク證據ヲ以テ必要ナルモノトセハ所有權ハ有名無實ニシテ第三者ハ對抗シ防衛スルヿ遂ニ能ハサルヿ是ナリ之ニ對シ所有權ノ證據ヲ請求スルヿヲ放棄シ單ニ權利ノ有形的外部ヲ發表スル占有ノ事實ヲ以テ足レリトスルヿ占有者ハ其所有權ヲ有スルヿ否ヤヲ問ハス占有ノ事實ヲ以テ其權利

ヲ阻害セントスルトキハ其理由ヲ陳セサルヲ許セリ蓋シ占有者カ財産権ヲ有スルトキハ
否トヲ別タス均一ノ之ヲ保護スルノ所以ナリ他ナシ若シ之ヲ検査スルニ
ハ占有ヲ保護スルノ效力ハ所有権ノ證據ヲ爲リ全然無效ニ属スルヤ明ナリ而シテ
占有ノ保護ハ此ノ如キ一般ナルモ然レトモ惡意ノ占有及ヒ盜賊ノ如キニ於テ
ハ(プレヒトール)ハ Intellectum ヲ許サス何トナレハ此保護ノ目的ハ占有者ニ對シモ少
キ權利ヲ有スル者カ爲メントスル所ノ攻擊ニ對シテ占有者ヲ防護スル所ニ在リ
惡意ノ占有者及ヒ盜賊ノ如キ占有者ハ十居大カ所ノ眞正ノ占有權ニ對抗スルコ
ト能ハサレハナリ蓋シ此等ノ場合ハ例外ニシテ通常物權ノ所有權ヲ有スル者
ハ又同時ニ之ヲ占有スル者ナリ故ニ外面所有者トシテ現ハルルモノヲ保護シ
ルハ眞正ノ所有者ヲ保護スルヲ常則トスルカ故ニ(ベーロー)ハ常ニ所有ノ
占有ヲ構成スルニ必要ナル二元素アリ曰ハ有形的ニシテ外部ノ事實ナリ之ヲ
Corpus ト謂フ他ハ一ハ無形的ニシテ占有者カ自ラ物件ノ所有主タル思惟ス
ル意思ナリ之ヲ Animus ト謂フ(ベーロー)ハ此二元素ハ實際ニ於テ最モ緊要ナルモノニシテ
第一ノ元來タル Corpus トハ實質上物件ヲ抑留シ之ニ對シテ其所有主タル民法

○最近判例要旨彙報

八五 無能力者ノ訴訟行爲追認ノ效力ヤ婚姻夫ノ許可ヲ受ケスシテ訴訟ヲ
提起シタルモ上告審ニ至リ夫ノ追認ヲ得タルトキハ其訴訟行爲ハ當初ニ遡テ
有效ナリトス(大審院明治三十五年(オ)第五百四十號相被權同復動產及債權
引渡並不動產登記名義書換請求事件明治三十六年二月十七
日第一民事部判決)

八六 民法施行前ニ於テ未登錄婚姻ノ效力ハ民法施行以前ニ在テハ夫
婦タル事實存在スルトキハ縱令其身分ヲ戸籍ニ登記セサルモ婚姻ノ效力ヲ生
スルモノトスヲ而シテ其婚姻ハ民法施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生スル
モノナルカ故ニ婦カ訴訟行爲ヲ爲スニハ同法第十四條ニ依リ夫ノ許可ヲ受ク
ルコトヲ要ス(同明治三十五年(オ)第五百四十號相被權同復動產及債權引渡並
不動產登記名義書換請求事件明治三十六年四月平七日第一民事部判決)

八七 未成年ノ妻ノ後見人ハ民法第七百九十五條ニ未成年ノ妻カ婚姻スルト

キハ親權者ノ存スルト否ト後見ノ開始スルト否トヲ問ハス婚姻ノ效力トシテ成年ノ夫カ直チニ其後見人ノ職務ヲ行ヒ民法第九百二十一條ニ定メタル權利義務ヲ有スヘキ旨ヲ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス（同明治三十五年(オ)第五百九十號判決）

八八　土地臺帳謄本ト私權證明

土地臺帳ヤ地租ニ關スル事項ヲ登錄スルモノニシテ其主タル目的ハ之ニ因リテ地租ヲ徵收スルニ在リト雖モ不動產登記法中土地臺帳ノ謄本ヲ必要トスル規定ニ該當スル場合ニ於テ該謄本ハ法律上私權證明ノ唯一ノ具タルコト論ヲ俟タス（同明治三十五年(オ)第五百八十一號名義更正請求事件明治三十六年二月十六日第二民事部判決）

八九　無效ナル船荷證券ノ民事上ノ證券トシテノ效力

船荷證券トシテノ無效ナルモノハ他ノ指圖證券トシテ有效ナルヤ否ヤハ當事者ノ意思ノ解釋ニ據リテ定マルヘキモノトス（同明治三十五年(オ)第六百八十三號物品引渡請求事件明治三十六年二月五日第一民事部判決）

九〇　民事訴訟ニ於ケル府縣ノ代表者

府縣知事ハ國ノ行政ニ於ケル民事ノ訴訟行爲ニ付キ其所屬ノ官吏ヲ指定シテ國ノ代表者ト爲スコトヲ得ルノ例ニ依リ府縣ノ行政ニ於ケル民事ノ訴訟行爲ニ付テハ亦其所屬ノ官吏ヲ指定シテ府縣ノ代表者ト爲スコトヲ得ルモノトス（同明治三十五年(オ)第六百八十四號物品引渡請求事件明治三十六年二月五日第一民事部判決）

府縣知事カ民事ノ訴訟行爲ニ付キ府縣ノ代表者ヲ指定シタルトキハ其指定セラレタル官吏ハ直接ニ府縣ヲ代表スルモノニシテ府縣知事ノ代理人ニ非ナルヲ以テ知事ハ其代表者ヲ指定スルト同時ニ其指定ヲ解クヤ自ラ府縣ノ代表者トシテ該訴訟行爲ヲ爲スノ權能ナキモノトス（同明治三十五年(オ)第十六號損害賠償請求事件明治三十六年二月二十四日第一民事部判決）

九一　監守監督懲戒者ノ責任

刑法第二百八十九條ハ監守ノ職責ニ違背シテ金品ヲ竊取又ハ費消シタル官吏ヲ嚴罰スルモノニ外ナラスシテ法律カ犯人ノ身分ニ因リ特ニ刑ヲ加重シタル場合ハ一ニ屬スルモノトス隨テ監守ノ責アル官吏ヲ教唆シテ監守逃罪ヲ犯サシメタル場合ニ對シテハ同條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ通常ノ逃罪又ハ逃罪ノ教唆ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス（同明治三十六年(オ)第四八號官吏監守逃亡事件明治三十六年三月十日第二刑事部宣告判決）

九二　兇器ノ意義

刑法第三百七十條ニ所謂兇器トハ人ノ身體ニ危險ナル

器具ヲ意味シ其性質上人ノ身體又ハ財産ニ傷害ヲ與フル得ベキ器械ノ總ベテヲ之ニ含ム（明治三十六年五月六日第二刑事部宣告）

第二條　詐欺取財罪ノ成立要件ハ詐欺ノ行為ニ因リテ被害者ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ財産ヲ交付スルコトトナリ其交付ノ結果ニ因リテ完成スルモノトス（明治三十六年四月七日第二刑事部宣告）

第三條　恐喝取財罪ノ成立要件ハ恐喝ノ行為ニ因リテ被害者ヲシテ恐怖ノ念ヲ生ジ其意ニ反シテ財産ヲ交付スルコトトナリ其交付ノ結果ニ因リテ完成スルモノトス（明治三十六年四月七日第二刑事部宣告）

第四條　無物ヲ共有スル（第二十七）數人ヨリ騙取シタル金錢ノ一部カ被告ノ手ニ存在セシ爲メ賠償ト称シテ差押ヘラレタル場合ニ被害者ハ民事訴訟ヲ以テ其賠償ヲ請求スルヲ要スル（同明治三十四年二月二十日第二刑事部宣告）

第五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第三十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第四十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第五十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第六十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第七十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第八十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第九十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百二十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百三十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百四十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百五十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百六十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百七十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百八十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第百九十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百二十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百三十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百四十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十一條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十二條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十三條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十四條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十五條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十六條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十七條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十八條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百五十九條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣告）

第二百六十條　詐欺取財罪ノ犯罪ハ既遂ニ至ルモノトス（明治三十六年二月二十日第二刑事部宣

和佛法律學校講義錄　三十六年度　高等科　第九號

法學志林

毎月一回十五日發行
一冊特價郵稅共金九錢
校友、生徒、校外生ニ限リ

第四十三號

（五月十五日發行）

志林

○現行法上鐵道會社、鑛山會社其他不動產會社ノ株主タル外國人ノ權能竝ニ外國人ニ對スル土地所有ノ禁ヲ撤スル利益ニ付テ（續）　巴里大學名譽教授　ポアソナード

○最近判例批評（其八）　法學博士　梅謙次郎

○課稅標準ヲ合算シタル營業稅ノ附加稅ニ付テ　法學士　若槻禮次郎

○「ベルチオン」式官人識別法ニ就テ　法學博士　岡田朝太郎　法學士　海山獨夫

講論

○取別所（續）

○屋行期限所債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因ル履行不能ト損害賠償請求權　法學士　國代律雄

○原始的株主カ拂込ヲ爲ササルニ因リ權利ヲ失ヒタル場合ニ於ケル株式處分ノ方法　法學士　松本烝治

解疑

○民事訴訟法第十七條ノ特別裁判籍ト差押ヲ許サル物件

○民事訴訟法第七百四十四條ト第三債務者

○債權者カ債務者ノ第三者ニ對スル假差押ノ手續　以上三題　法學士　岩田一郎

其他　判例、雜報、記事　數十件

發行所　和佛法律學校

（郵稅二十二年十二月九日內務省許可）

（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可　毎月廿一回一日三日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十八日十日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年五月十六日印刷
明治三十六年五月十七日發行
（定價金貳拾五錢）

編輯兼發行者　東京市牛込區牛込北町十番地　荻原敬之

印刷者　東京市牛込區矢來町三番地　小宮山信好

印刷所　東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地　金子活版所

發行所　東京市麴町區富士見町六丁目十六番地　和佛法律學校

司法省指定

（電話番町百七十四番）